

乙
石
遺
跡
1

—第4次調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第1143集

乙石遺跡1

—第4次調査報告—

2012

福岡市教育委員会

福岡市教育委員会

110

otoishi
乙石遺跡 1

— 第 4 次 調 査 報 告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第1143集



遺跡略号 OTI-4
調査番号 1020

2012

福岡市教育委員会



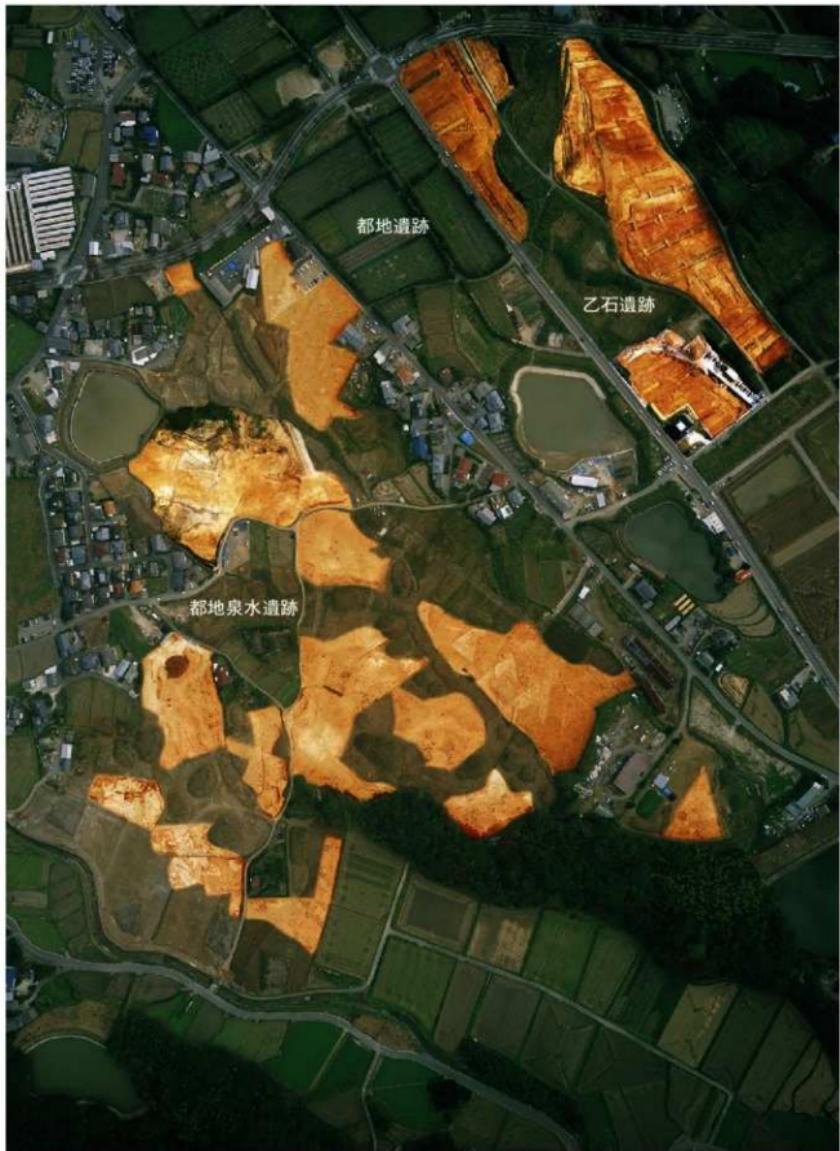
1. 調査区鳥瞰（南西から市街地を望む）



2. 調査区鳥瞰（東から飯盛山を望む）



3. 調査区俯瞰（デジタルモザイク写真。南西から）



4. 都地泉水遺跡・都地遺跡・乙石遺跡俯瞰（デジタルモザイク写真。西から）

序

玄界灘に面して広がる福岡市は、古くから大陸との玄関口として発展し、市内には多くの歴史遺産が存在します。これらは私たちの暮らしに潤いを与え、豊かな生活環境を作り出しています。福岡市教育委員会はこれらの遺跡を後世に伝えていくため、様々な形で遺跡の保存・活用に取り組んでいます。

その一方で、開発事業により、重要な遺跡が破壊され、失われつつあるという厳しい現実があります。本市教育委員会ではこれらの遺跡については事前に発掘調査を行い、先人の足跡を後世に残せるよう、その記録保存に努めています。

本書は西区金武地内における乙石遺跡第4次調査の成果を報告するものです。金武地区は日向岬を介して糸島平野と早良・福岡平野とを結ぶ交通の要衝にあたり、多くの遺跡があります。今回の調査でも、縄文時代にはじまり、古墳時代から近世にいたる各時代の集落を調査することができました。この調査の成果は、この地域の歴史を明らかにする上で貴重な資料になることが期待されます。

本書が文化財保護へのご理解とご協力を得られる一助となるとともに、学術研究の資料としてご活用頂けましたら幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、福岡市金武・吉武地区画整理組合をはじめとする多くの方々のご理解とご協力を賜りました。ここに心より謝意を表します。

平成24(2012)年3月16日

福岡市教育委員会
教育長 酒井龍彦

例言・凡例

1. 本書は、土地区画整理事業に伴い福岡市教育委員会が平成22年度に実施した乙石遺跡第4次調査（福岡市西区金武）の発掘調査報告書である。発掘調査および整理報告書作成は、民間受託・国庫補助事業として実施した。

2. 本書作成における作業分担は以下の通りである。

遺構実測 板倉有大・朝岡俊也

遺構写真撮影 板倉

ラジコンヘリコプター空中写真撮影・合成モザイク作成 写測エンジニアリング株式会社

遺物実測 朝岡・板倉

拓本 朝岡

遺物写真撮影 板倉

トレース 副田則子・朝岡・板倉

執筆・編集 板倉

また、乙石遺跡第3次調査出土石器について本書付篇として補遺を掲載している。遺物の実測・トレース・写真撮影・執筆は板倉が行った。

調査・整理の過程で諸氏のご協力を頂いた。ご芳名を掲げて謝意を表したい（五十音順・敬称略）。

加藤隆也 加藤良彦 上角智希 菅波正人 長家伸 比嘉えりか 宮井善朗 吉留秀敏

3. 本書に使用した方位は磁北で、磁気偏角は西偏6°54'である。国土座標は世界測地系を用いた。

4. 乙石遺跡の遺跡略号は第3次調査報告までは「OT A（乙石A）」が使用されていたが、乙石A・B・C遺跡は「乙石遺跡」として統合されているため、本報告からは「OT I（乙石）」とする。

5. 遺構略号は、SB（掘立柱建物）、SC（竪穴建物）、SD（溝）、SK（土坑）、SP（ピット）、SX（包含層等その他）とする。

6. 報告後の遺物・写真・図面の管理は、福岡市埋蔵文化財センターで行う予定である。

7. その他調査に関わる基本情報は下表の通りである。

遺跡名	乙石遺跡	調査次数	4次	遺跡略号	OTI-4
調査番号	1020	分布地図図幅名	都地93	遺跡登録番号	020422
申請地面積	73,000m ²	調査対象面積	4,018m ²	調査面積	3,360m ²
調査期間	平成22年8月17日～平成23年2月23日			事前審査番号	19-2-991
調査地	福岡市西区金武				

本文目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の組織	1
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	2
第Ⅲ章 調査の方法	
第1節 調査の方法	5
第2節 調査の経過	5
第Ⅳ章 調査の成果	
第1節 調査の概要	7
第2節 遺構と遺物	7
第Ⅴ章 総括	28
付篇 乙石遺跡第3次調査出土石器（補遺）	29

挿図表目次

第1図 乙石遺跡周辺の主要遺跡 (1/50,000)	3
第2図 調査地点周辺の既調査区 (1/5,000)	4
第3図 調査範囲と区分け (1/1,000)	6
第4図 遺構全体図 (1/300).....折り込み	
第5図 調査区土層実測図 (1/60).....折り込み	
第6図 SX013・043出土剥片・碎片サイズ散布図	9
第7図 SX043遺物出土状況実測図 (1/100)	10
第8図 SX013遺物出土状況実測図 (1/20)	11
第9図 SX013・043出土石器実測図 1 (1/1)	12
第10図 SX013・043出土石器実測図 2 (1/1, 1/3)	13
第11図 SC066実測図 (1/50)	14
第12図 SC066出土土器実測図 (1/3)	15
第13図 SB148~152実測図 (1/80)	16
第14図 SB153・154・SP実測図 (1/80)	17
第15図 SB・SP出土遺物実測図 (1/2, 1/3)	18
第16図 SP出土土器実測図 (1/3)	19
第17図 SK実測図 1 (1/30)	20
第18図 SK実測図 2 (1/30)	21
第19図 SK出土土器実測図 (1/3)	22
第20図 SX出土土器実測図 (1/3)	24
第1表 出土遺物観察表	25
第2表 出土石器観察表	26

図版目次

- 卷頭図版 1 1. 調査区鳥瞰（南西から） 2. 調査区鳥瞰（東から）
卷頭図版 2 3. 調査区俯瞰（デジタルモザイク写真。南西から）
卷頭図版 3 4. 都地泉水遺跡・都地遺跡・乙石遺跡俯瞰（デジタルモザイク写真。西から）
図版 1 1. 1c区全景（北西から） 2. 1d区全景（南東から）
3. 1c・d区全景（北東から）
図版 2 4. 1a区西壁土層（北東から） 5. 1a区南壁土層（北東から）
6. 1a区中央東西土層（東から）
図版 3 7. 3区南北土層（南から） 8. 4区南北土層（西から）
図版 4 9. SC066（西から） 10. SK015（北東から）
11. SB148検出（東から）
図版 5 12. SP004（南から） 13. SP006（南から）
14. SP007（西から）
15. SP010 須恵器高台坏（第15図29）出土（西から）
16. SP014（南から） 17. SP028（北西から）
図版 6 18. SP086（南西から） 19. SP114（南西から）
20. SP111（南から） 21. SP113（東から）
22. SP110（東から） 23. SP106（東から）
図版 7 24. SP115（東から） 25. SP116（南から）
26. SP117（南から） 27. SP119（西から）
28. SP108（北から） 29. SP110（北東から）
図版 8 30. SK057土層（東から） 31. SK096土層（東から）
32. SK129土層（北から） 33. SK027土層（南から）
34. SK042土層（南から） 35. SK098土層（西から）
図版 9 36. SX013上面遺物出土（南西から） 37. SX013中層遺物出土（南西から）
38. SX013（南から） 39. SX013 打製石器（第9図1）出土
40. SX043遺物出土（北東から） 41. SX043グリッド掘削（西から）
図版10 42. SB148・149（東から） 43. SB154（東から）
図版11 44. SK057（南から） 45. SK096（東から）
46. SK129（北から） 47. SK027（東から）
48. SK023（北東から） 49. SK098（東から）
図版12 50. SK080（北西から） 51. SK025（北西から）
52. SK081（北西から） 53. SX044（南東から）
54. SX046（北西から） 55. SX048（南東から）
図版13 56. SC066出土遺物 57. SX・検出面出土遺物
図版14 58. SB・SP出土遺物 59. SX出土鉄滓
60. 上層包含層出土陶磁器
図版15 61. SX013・043出土石器 62. 乙石遺跡第3次調査出土石器

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

福岡市教育委員会は、埋蔵文化財の保護を図るために、各開発関係機関との間で、事業区域内における文化財の有無及びその取り扱いについて協議し、諸開発との調整を図っている。

2008年3月26日、福岡市金武・吉武土地区画整理組合（以下金武区画整理組合）から、福岡市西区金武（7.6ha）内において計画した土地区画整理事業地内の埋蔵文化財の有無について、福岡市教育委員会に照会があった（受付番号19-2-991）。教育委員会文化財部埋蔵文化財第1課および同第2課では、近接地での発掘調査成果をもとに乙石遺跡包蔵地内に当たる4,018m²については発掘調査が必要であると判断し、その旨を金武区画整理組合宛に報告・通知した（事前審査報告書（教理1第2-991号）、周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）（教理1第1594号））。

事前審査の結果をもとに埋蔵文化財第1課と金武区画整理組合が協議を行い、遺跡の現状保存が困難であるため、破壊部分について発掘調査を実施し、記録保存することになった。発掘調査業務については、金武区画整理組合の委託を受けて、福岡市教育委員会が行うことになった。

各担当者による現地協議を経て、福岡市教育委員会文化財部埋蔵文化財第2課が2010年8月17日から2011年2月23日まで発掘調査を行った。また、整理作業と報告書の作成は、同第2課が2011年度（平成23年度）に行なった。

調査・整理の過程では、福岡市金武・吉武土地区画整理組合をはじめとした関係各位のご理解とご協力を頂いた。記して感謝申し上げる。

第2節 調査の組織

発掘の調査・整理にあたっての組織は以下の通りである。

調査委託 福岡市金武・吉武土地区画整理組合

調査主体 福岡市教育委員会

調査総括 文化財部埋蔵文化財第2課 課長 田中壽夫 調査第2係長 普波正人

調査庶務 文化財部埋蔵文化財第1課管理係 古賀とも子

事前審査 文化財部埋蔵文化財第1課事前審査係 木下博文

調査担当 文化財部埋蔵文化財第2課調査第2係 板倉有大

調査作業 青木和代、青木真孝、朝岡俊也、阿比留忠義、有江笑子、岩崎美榮子、緒方信子、国友和夫、佐藤直利、柴田勝子、柴田春代、島田貞子、瀬戸啓治、染井美保子、高木美千代、田中賢輔、友池敏夫、農辻義弘、中村秀策、西美由喜、西嶋ムラ子、西嶋洋子、西納富士夫、西藤勝喜、野崎賢治、樋口拓弘、廣瀬公則、廣瀬博子、二神智香子、馬奈木留雄、三村悦子、山口富子、吉田一寛、吉安秀三、脇坂ミサヲ

（五十音順）

整理作業 副田則子、藤野静子、朝岡俊也（福岡大学人文学部学生）

第II章 遺跡の位置と環境

本調査地点は、福岡・早良平野の南西、背振山稜から北東に延びる丘陵上、標高約50mに位置する。北西側は北東に流れる日向川に開析され、東側では室見川が北流する。西に王丸山(標高453m)、北西に飯盛山(標高382.4m)を望み、北東から東にかけての眼下には早良平野が広がる(第1図)。調査地点は、福岡市内遺跡分布地図上で乙石遺跡の東端、都地遺跡の西端に隣接しており、乙石遺跡としての4次調査となる。

金武地区は、日向岬を介した糸島平野と早良平野を結ぶ交通の要衝に位置し、多くの遺跡が存在する。以下に調査地点周辺の調査成果を中心とした歴史的環境を概観しておきたい(第2図)。

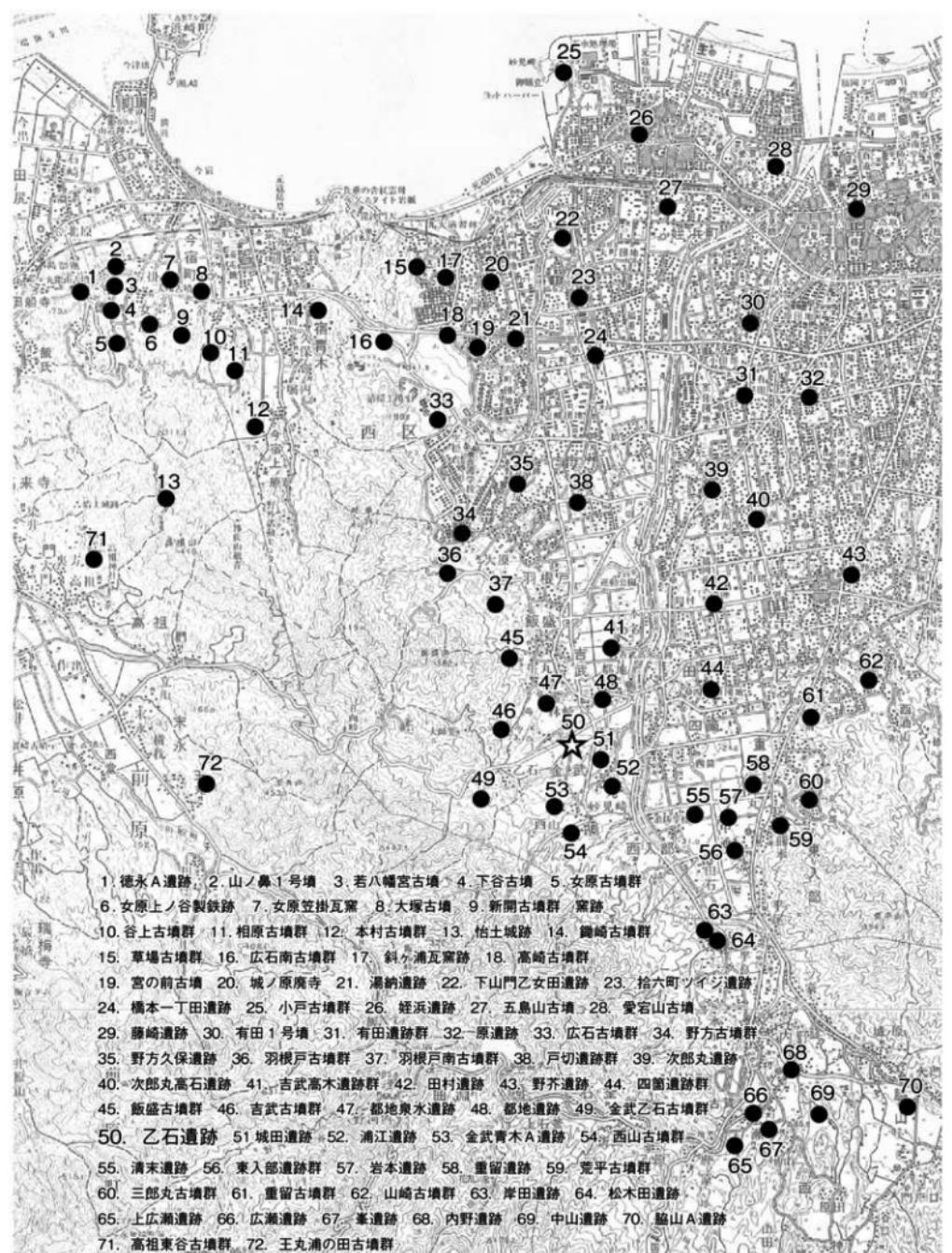
旧石器時代～縄文時代 乙石遺跡第2次調査で、ナイフ形石器・台形石器・細石刃器・押型文土器・曾畠式土器・石鎌・石匙などが出土しているが、遺構は伴わず、遺物量も少ない。陥穴状遺構が確認されていることからも、狩猟場的な性格であったと考えられる。縄文時代後期前半になると、吉武遺跡群・城田遺跡・浦江遺跡などで貯蔵穴が確認され、定着的な集落の萌芽が認められる。縄文時代後期後半には、早良平野内の微高地に四箇遺跡・田村遺跡・東入部遺跡・重留遺跡などの拠点的集落が形成される。水稻農耕導入前の沖積低地利用のあり方が注目される。

弥生時代 吉武遺跡群・野方久保遺跡・東入部遺跡・浦江遺跡・城田遺跡などで弥生時代中期以降、竪穴住居・掘立柱建物などから構成される集落と甕棺墓群や区画墓などの墳墓が確認されている。伊都国と奴国を結ぶ要衝地として、安定した集落の形成と政治的結合が図られていたと考えられる。

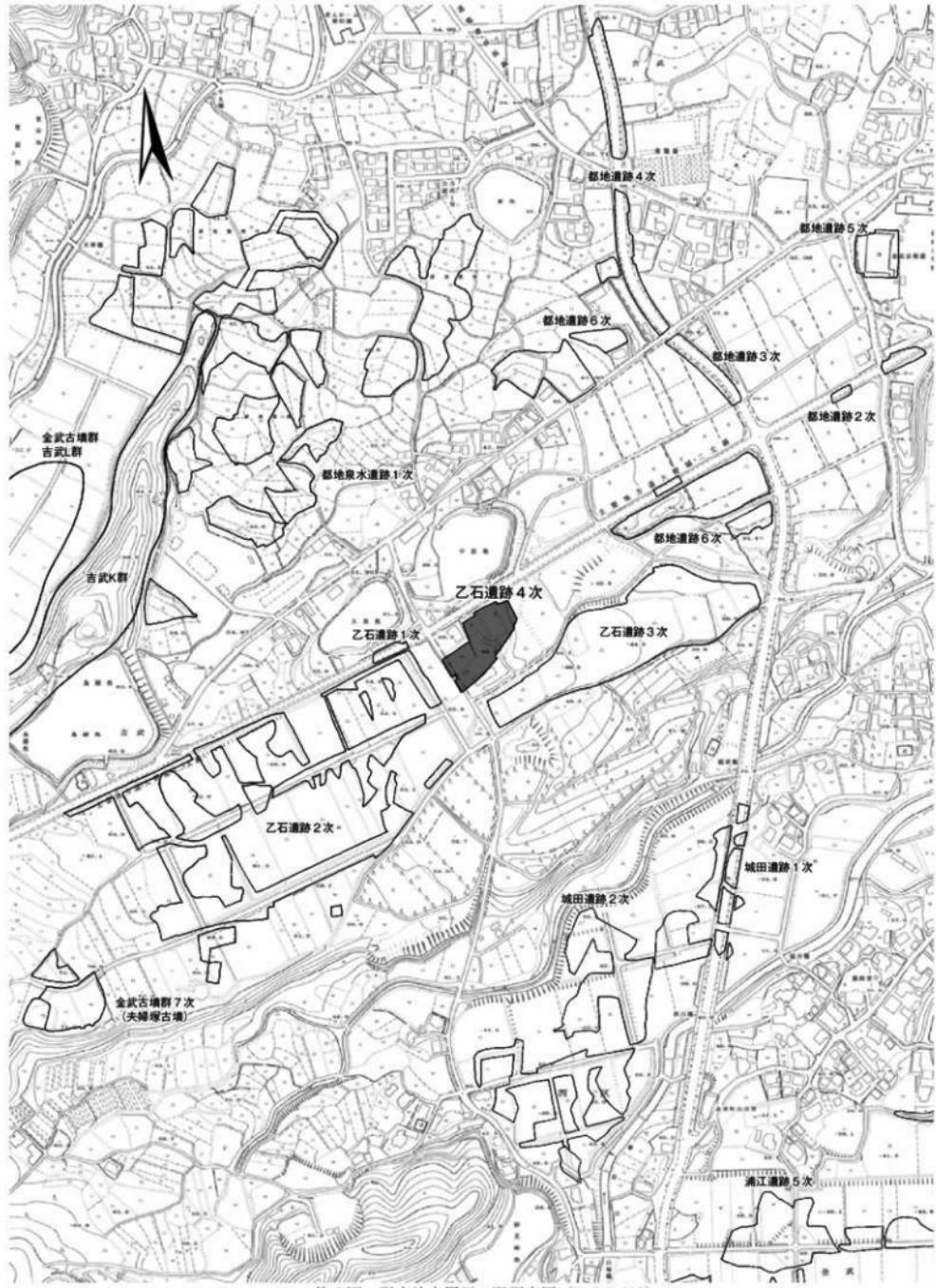
古墳時代 長垂山塊東麓一帯では、北から拾六町・野方・羽根戸・羽根戸南・飯盛・金武・黒塔・西入部などで400を超える古墳群が確認されており、6～7世紀の横穴式石室の円墳からなる群集墳造営が活発な様相を示す。5世紀の桶渡前方後円墳を除けば、4～5世紀の前方後円墳が集中する長垂山塊西麓～今宿平野周辺との対比を見せる。集落遺跡では製鉄関連遺構が確認されており、群集墳への鉄滓供獻例も多い。また、陶質土器の出土などに渡来人の存在を想定できる。古墳時代前・中期の造墓活動が乏しいところへ、6世紀以降に造墓活動が活発化する背景には、中央政権や渡来人など外部勢力による居住と開発が関係したと予想されている。

古代 製鉄炉や鍛冶炉が乙石遺跡・都地遺跡・都地泉水遺跡・城田遺跡でみつかっており、古墳時代に継ぎ、製鉄関係を生業とした集団の居住が特徴となる。都地遺跡6次調査では大型建物が確認され、城田遺跡2次調査では基壇を持つ大型建物が確認されている。都地泉水遺跡1次調査では「(那珂郡乎佐)銘刻書須恵器、都地遺跡では「大殿」銘墨書き土器が出土し、新羅土器、硯、銅碗、越州窯系青磁などの出土も目立つ。建物群は官衙的性格を持つ居館の可能性が指摘されており、早良郡衙の下部組織として水田経営や製鉄を行った集団の存在が想定されている。また、南側の金武青木A遺跡では、両面廻掘立柱建物・溜井状遺構・焼土坑・鍛冶炉・池状遺構などが検出され、池状遺構からは墨書き土器、刻書き土器、針書き土器、円面硯、輪羽口、弓・人形・折敷・曲物などの木製品、「怡土城」「志麻郡」「延暦十年」などが書かれた木簡が出土した。怡土城の築城、後方支援に関わる可能性が考えられている。

中世以降 都地泉水遺跡で中世前期の墓・土坑・柱穴などが確認されている。中世期は飯盛神社や細川若狭守の城館と推定される都地城館との関連が今後注目される。近世以降は耕地として本格的に開墾され、近年の葡萄園経営、圃場整備・区画整理事業による開発を経て、現在に至っている。



第1図 乙石遺跡周辺の主要遺跡 (S=1/50,000)



第2図 調査地点周辺の既調査区 (S=1/5,000)

第Ⅲ章 調査の方法

第1節 調査の方法

乙石遺跡第4次調査として本調査を行うことになった4,018m²については、福岡市文化財分布地図上では乙石遺跡範囲と都地遺跡範囲の中間に位置する。乙石遺跡第2次調査の成果から、乙石遺跡の包蔵地範囲が東の丘陵上に延びることが予想されたため、埋蔵文化財第1課では本調査範囲については乙石遺跡とすると判断した。周辺調査の成果からは、古代を中心とした掘立柱建物と製鉄関連遺構の検出が予想され、南側は谷で遺構検出面が限られると予想された。

ユニットハウスと排土置き場は調査範囲の南側に設けた。調査範囲は、個人所有物の搬出の関係ですべて同時に着手できなかつたため、調査範囲を西から現況の土地区画に合わせて1a・b区、2～4区に分けて、1a・2区→4区→1b・3区の順で調査を行うこととした。また、1a・2区については区画整理事業者がローラー車転圧によって埋め戻すことになった。そのため、埋め戻し作業中の約3週間調査が中断した。また、調査途中で、西側隣接道路下の下水道工事部分について追加調査となつたため、1c・d区として調査を行った。調査区はすべて表土をバックホーで除去した後、発掘作業員約30名で遺構検出および掘削を行つた。要調査範囲のうち、遺構が広がらない南・東側の谷部の掘削は一部省略した。総調査面積は約3,360m²であった。

調査区内のグリッドは、調査区の範囲に合わせた任意座標とし、後に区画整理組合が設置した4級基準点から世界測地系座標を与えた。座標測定は調査担当者が光波測距儀を用いて行った。調査写真は、35mm判と6×7cm判のモノクロおよびリバーサル、デジタルカメラ（NikonD70 s）で撮影した。全景写真については、写測エンジニアリング株式会社にラジコンヘリコプターによる撮影を委託し、6×6cm判のモノクロおよびリバーサルフィルムで撮影した。現場での実測・測量図の縮尺については、1/10遺構実測図、1/20遺構平面図、1/20土層実測図、1/100調査区内平板測量図とした。標高値は、区画整理組合が設置した4級基準点から約10m移動させ、機械高を標高49～51mとした。土層注記は新版標準土色帖をもとに担当者の肉眼観察で行った。

包含層遺物については、平面・層位ごとにSX番号を付けて大別し、一括して取り上げた。出土遺物は現場で洗浄・乾燥させた。また、後の自然科学分析に備えて、土坑（SK023・025・057）出土の炭を採取している。

第2節 調査の経過

調査の経過は、次の通りである。

平成22（2010）年

調査開始前 プレハブ・トイレの設置。駐車場の整地。

8月17日（火） 機材類搬入。1a・2・4区調査開始。

10月27日（水） 1a・2区調査終了および埋め戻し開始。

11月18日（木） 1a・2区埋め戻し終了および1b区調査開始。

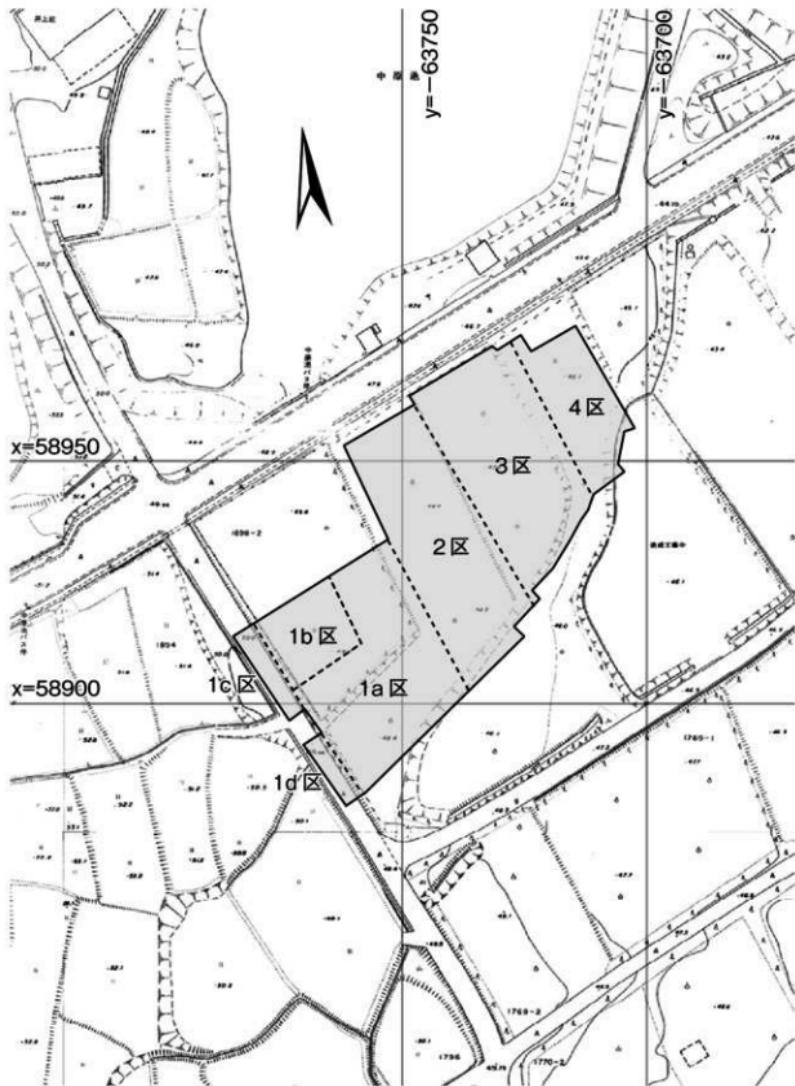
平成23（2011）年

1月5日（水） 3区調査開始。

2月9日（水） 1b・3・4区調査終了および1c・d区調査開始。

2月17日（木） 1c・d区調査終了。残務整理開始。

2月23日（水） 機材類搬出。発掘調査終了。



第3図 調査範囲と区分け (S=1/1,000)

第IV章 調査の成果

第1節 調査の概要

遺構検出面は、北西および北東軸の現代大型水路によって切り刻まれた状態であった。遺存した部分も、耕地利用時の平坦・段造成および小型水路や柱穴・アンカー穴など現代ブドウ棚構築時の搅乱を受けた状態であった。旧地形はほとんど留めていないが、西側の標高約49mから東側の標高約46mへ緩やかに傾斜している。かろうじて削平を免れた遺構は、柱穴を中心に、竪穴建物・土坑・包含層などを確認した。遺構は低密度で、切り合いも少ない。出土遺物は7世紀後半から8世紀初頭の土器が大半で、飛鳥～奈良時代の単純遺跡に近い様相を呈している。

層序は、上層から客土→耕作土→褐色～黒褐色粘質土（包含層）→明黄褐色～明赤褐色、シルト～砂質粘土（地山・遺構面）となる。包含層は、調査区の南・東側の斜面部に一部残存していた。遺構埋土は、褐色（10YR4/4～6）シルト質粘土（地山ブロック・炭・焼土含む）と黒褐色（10YR3/1）シルト質粘土に大別される。ブロック状に残る包含層は黄色がかった褐色（10YR4/4～6）～黄褐色（10YR5/8）粘質土である。地山は花崗岩バイラン土で、一部礫層が露出している。

遺構の概要是、黒曜石・安山岩の打製石鐵・剝片・碎片の集中範囲SX013・043、方形竪穴建物SC066、3×2間・2×2間の無庇掘立柱建物、炭・焼土が遺存した隅丸長方形土坑、その他の略方形土坑・柱穴、遺物包含層である。SX013・043は、打製石鐵の製作・管理を行った場所と考えられる遺物が出土している。掘立柱建物は側柱以外に構造物が把握できず、出土遺物も少ないため性格は不明であるが、北北東に軸を合わせており、ある程度の計画的な配置をうかがえる。隅丸長方形土坑は、埋土に焼土・炭が多く含まれる点が特徴で、製鉄に関わる炭窯遺構と考えられているものである。包含層は、上層（にぶい黄褐色粘土と砂質土の互層・混土、SX001・034）、下層（黒褐色～暗褐色粘土、SX032・037・139・123）に分けられる。また、遺構検出面全体に黄色がかった褐色粘質土の堆積が認められ、遺物を含んでいる（第4回破線範囲。図版12-53～55）。平面形は輪郭が不明瞭な不成形で、底面や側面は凹凸があり、下方向だけでなく横方向へ堆積が延びるものもあり、人為的な掘り込みとは考えられない。風倒木などの成因から生活面の土壤が再堆積した、一種の包含層と言える。一部を掘削し、SXとして遺物を取り上げた。その他、時期不明の土坑SK098は井戸もしくは陷穴の可能性がある。

遺物は、土師器・須恵器・陶磁器・石器・鉄滓などが、パンコンテナ5箱分出土した。大半が7～8世紀の所産であるが、6世紀代と近世の遺物が少量出土した。以下の報告において、遺物の詳細について観察表（第1表）を参照されたい。

第2節 遺構と遺物

石器集中範囲

SX013・043（第6～8図、図版9） E-1～3区で検出した石器集中範囲である。掘削した範囲は東西9m、南北22mの範囲であるが、東西を搅乱溝で削平され、北側は調査区外となるため、本来の集中範囲はさらに広がっていたと考えられる。遺構検出時に黒曜石片の出土が目立ったため、2mグリッドを設けて、遺物の点上げを行った。揚土の洗浄は行わなかった。掘削範囲では黄色がかった褐色土のブロック状堆積が認められ、遺物が包含される明褐色～黄褐色粘質シルト層と重複する状態で

あった。この褐色土ブロックがみられなくなり、花崗岩バイラン土の明赤褐色砂質粘土が露出するレベルで遺物の出土が止まった。剥片については黒曜石と安山岩をそれぞれ長さと幅で、剥片大（黒曜石：長さ0.74～3.33cm・幅1.1～2.75cm、安山岩：長さ1.11～6.16cm・幅2.39～273cm）、剥片小（黒曜石：長さ0.5～2.2cm・幅0.79～1.48cm、安山岩：長さ0.71～2.06cm・幅1.33～1.88cm）、碎片大（黒曜石：長さ0.43～1.65cm・幅0.6～1.15cm、安山岩：長さ0.47～1.4cm・幅0.81～1.2cm）、碎片小（黒曜石：長さ0.24～1.39cm・幅0.16～0.89cm）に分類した（第6図）。この分類は、個々の剥片・碎片の性格をふまえたものではなく、長さ・幅の不連続性も明確なものではないので、作業上の便宜的なものである。この分類をもとに、第7・8図に遺物の出土状況を示している。平面では多少の集中範囲が認められ、褐色土ブロックに重複する傾向がある。褐色土ブロック中の堆積を見ても、層位的な堆積は認められない。褐色土ブロックが風割木痕などの可能性があるため、遺物の大半は再堆積して原位置を移動していると考えられるが、この範囲に遺物が集中すること自体は人為的な営為の結果と考える。土器はまったく出土しなかった。

出土遺物（第6・9・10図、図版15） 出土総数584点のうち、打製石鎌（1～8）、剥片（9～17）、台石（18）を図化した。打製石鎌は鍔形を基本とし、表裏面への丁寧な横圧剥離による成形で特徴づけられる。脚部の欠損が目立ち、不成形な失敗品（4）も認められる。製品は打製石鎌のみで、図化した8点の他に脚部片2点が出土している。18は花崗岩の扁平な亜円錐を利用し、前面中央に使用に伴う凹みが認められる。台石として利用された可能性がある。第2表に記載した長さと幅以外の厚さと重量は、1（0.55cm、2g）、2（0.5cm、15g）、3（0.3cm、0.8g）、4（0.53cm、1.2g）、5（0.4cm、1g）、6（0.4cm、0.9g）、7（0.4cm、1.2g）、8（0.3cm、0.4g）、9（0.3cm、1.8g）、10（0.75cm、3.2g）、11（0.25cm、0.8g）、12（0.45cm、1.2g）、13（0.7cm、2g）、14（0.2cm、0.7g）、15（0.7cm、11.4g）、16（0.6cm、2g）、17（0.8cm、3.5g）である。18は、長さ16.4cm、幅20.2cm、厚さ4.8cm、重量1943.4gを測る。584点中、黒曜石554点、安山岩30点で、黒曜石が95%を占める。2・8・9は灰黒色黒曜石で針尾島や牟田産と考えられるが、それ以外は腰岳産と考えられる。器種を判断できる577点の組成は打製石鎌10点（1.7%）、残核1点（0.2%）、剥片大46点（8%）、剥片小55点（9.5%）、碎片大93点（16%）、碎片小372点（64.5%）で、碎片小を除いた一覧を第2表に掲載している。製品が石鎌に限られ、碎片・チップが大半を占めて、素材剥片・石核・残核が残らない点が特徴である。

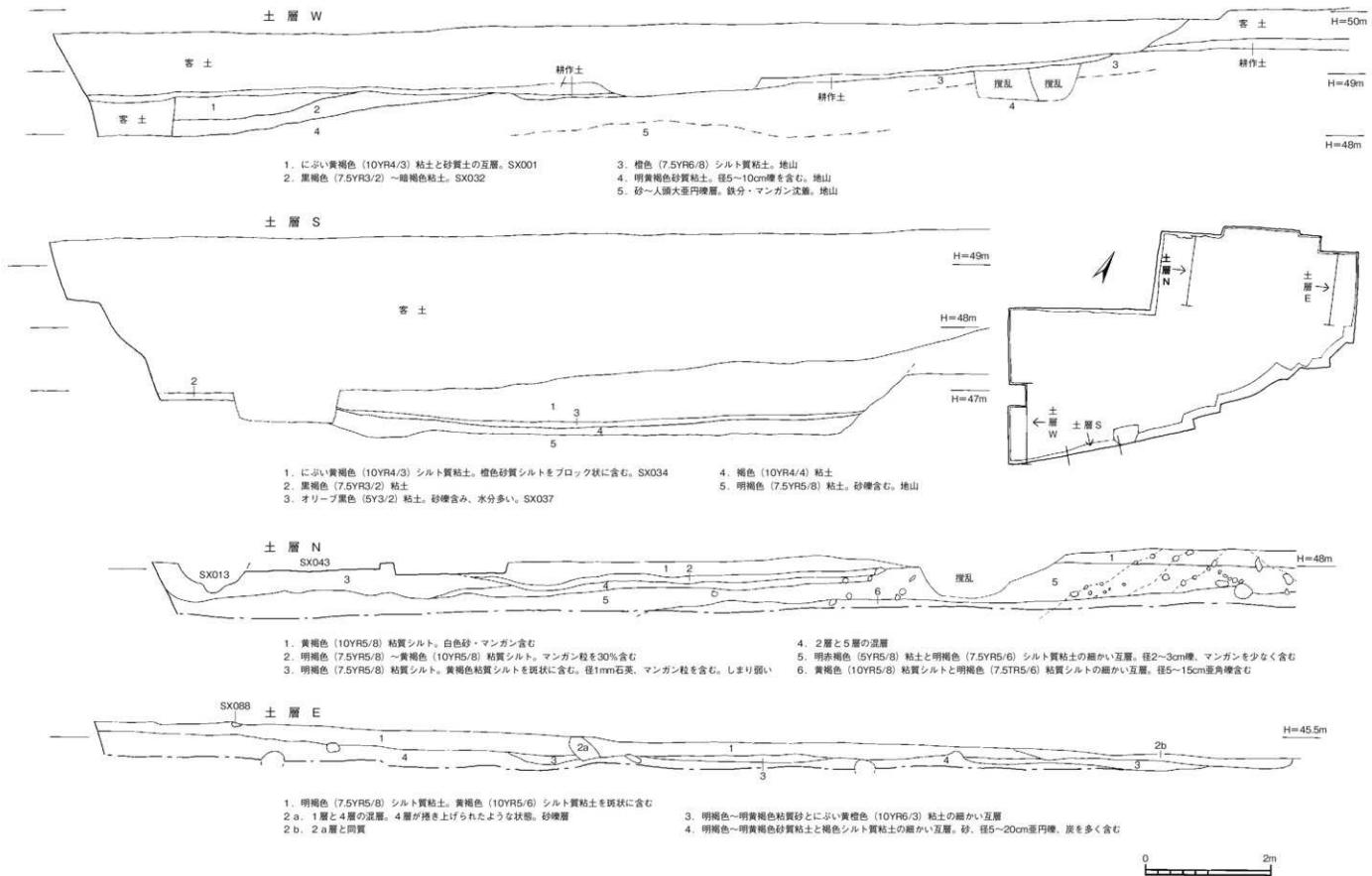
この他、60点がその他包含層状落ち込みSX、21点が後世の遺構・搅乱と検出面から出土した。すべて旧石器時代・縄文時代後晩期・弥生時代などの特徴的な剥片剥離技術は認められない。鍔形鎌の出土を重視するならば大半が縄文時代早期後半に位置づけられるであろう。ただし、本調査では押型文土器は出土していない。

竪穴建物

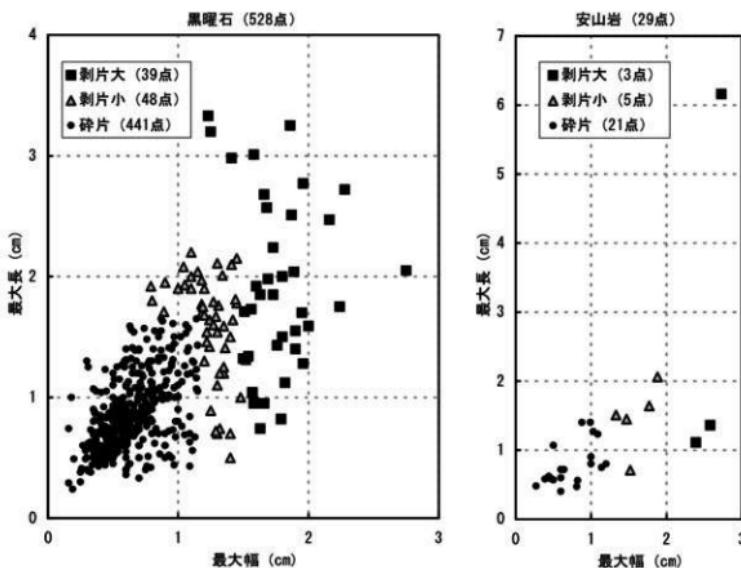
SC066（第11図・図版4） G・H-5区で確認した南西軸の方形竪穴建物である。南東半は削平で失われている。竪穴の1辺は45mで、深さは最大で20cmを測る。主柱穴はP 1～3を確認し、柱間は2～22mを測る。円形で径35～45cm、柱痕跡は認められず、深さは40～55cmを測る。SP053など径30cmほどの小型柱穴も認められる。SK015は南壁中央に位置し、長さ1.2m、幅1m、深さ15cmを測る。南側が一段掘り窪められている。埋土は炭を含む褐色シルト質粘土で、中央に焼土が堆積しており、炉跡と考えられる。粘土による構造物や支脚等、カマドに関わる要素は認められなかったが、壁際の配置などからカマドの可能性も十分考えられる。南西角がわずかに西側へ張り出している。



第4図 遺構全体図 (S=1/300)



第5図 調査区土層実測図 (S=1/60)



第6図 SX013 · 043出土剥片・碎片サイズ散布図

SK015からつながる煙道の痕跡の可能性もあるが、堆積等から積極的な痕跡は認められなかった。堅穴内の埋土は炭粒混じりの褐色シルト質粘土の単層である。

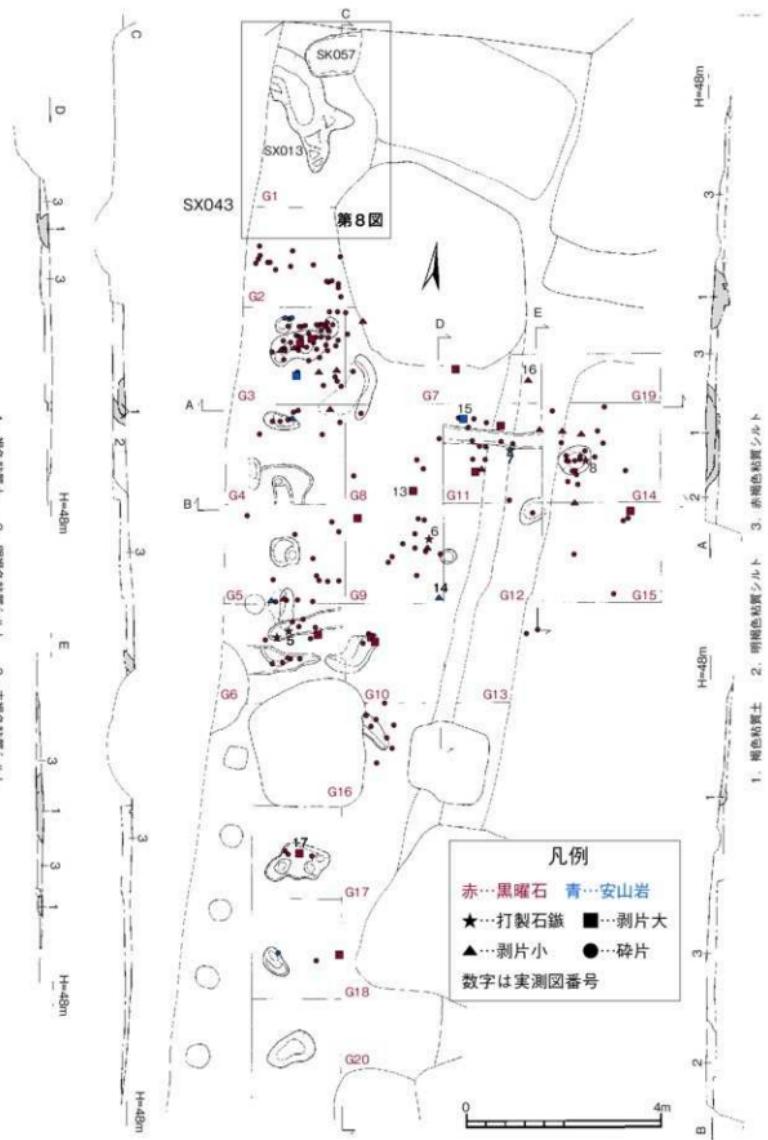
出土遺物（第12図） 土師器の鉢（19）、壺（20）、壺蓋（21）、高壺（22～24）が出土した。21は須恵器模倣土師器で、SK015とP1で接合した。24は脚部外面を縦方向のヘラナデで面取して仕上げる。この他、土師器・須恵器小片が少量出土した。遺物から遺構の時期は6世紀代と考える。

掘立柱建物

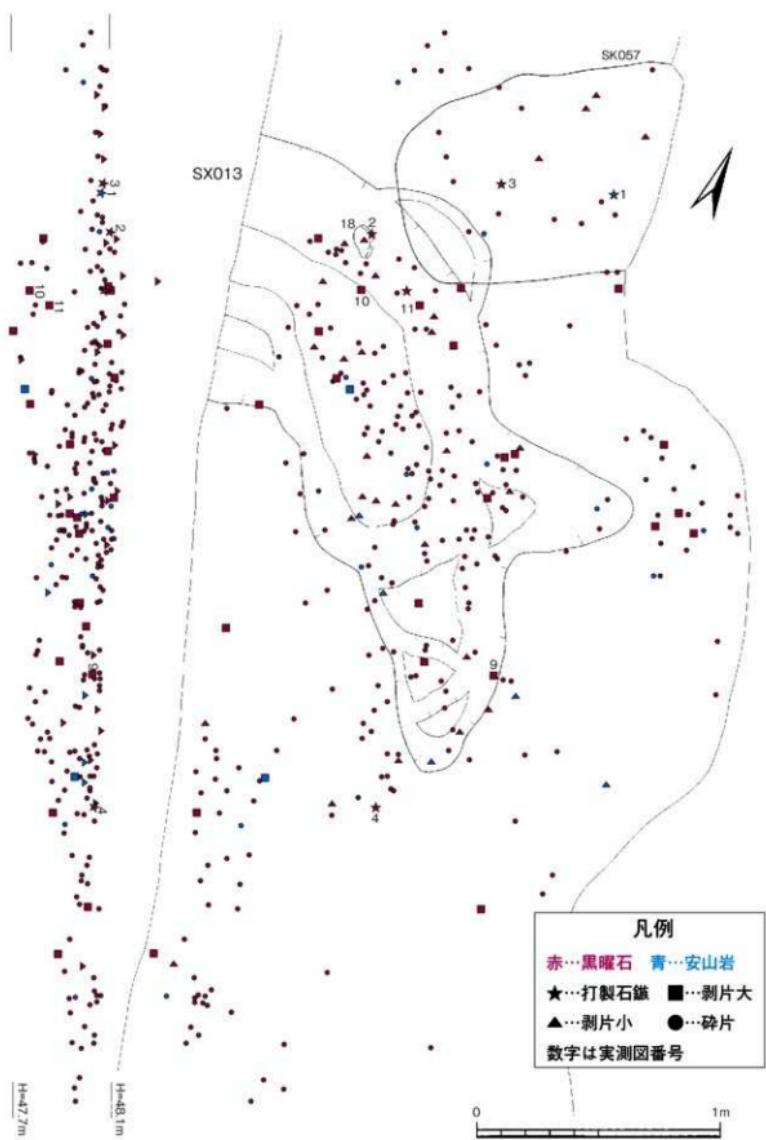
調査区全体で散漫に柱穴を確認した。柱穴は径70～80cmの隅丸方形と径40～50cmの円形に大別され、深さは30～50cm、柱痕跡は径20～30cmである。削平が著しく、掘立柱建物として立てられるものは限られる。掘立柱建物は、3×2間、2×2間の2種類があり、柱の通りは悪く、側柱以外の構造については不明である。建物との関わりが不明な柱穴については、比較的残りのよいものと時期比定可能な遺物が出土したものについて報告する。出土遺物が少なく、判断材料が少ないが、遺構の時期は7世紀後半から8世紀前半と考える。

SB148（第13図、図版4・10） H-I-4区で確認した桁行西北西軸3×2間（6.2×3.4m）の無底掘立柱建物である。柱間は1.6～2.6mと幅があり、柱の通りは悪い。柱穴は隅丸方形で1辺70～80cm、径20～25cmほどの柱痕跡が良く残っており、深さは20～30cmを測る。SP114・155・113・110・106・115・107・117・116・111から遺物が出土した。北西辺の中央柱穴SP155には根石が残る。

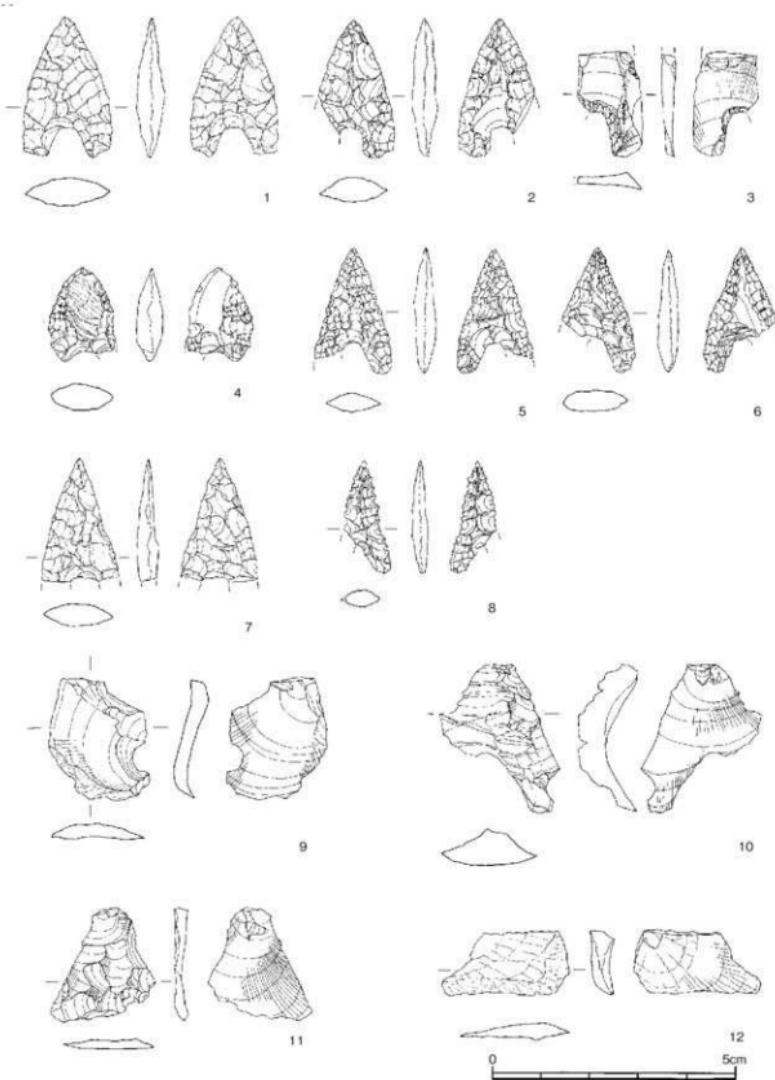
出土遺物（第15図） 25はSP110から出土した土師器の壺もしくは壺で、内面に炭化物が付着する。この他、土師器小片が出土した。



第7図 SX043遺物出土状況実測図 (S=1/100)

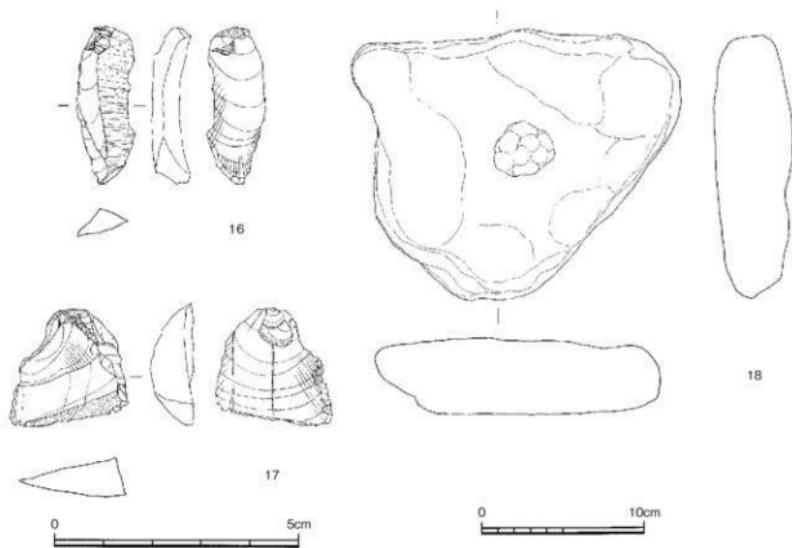
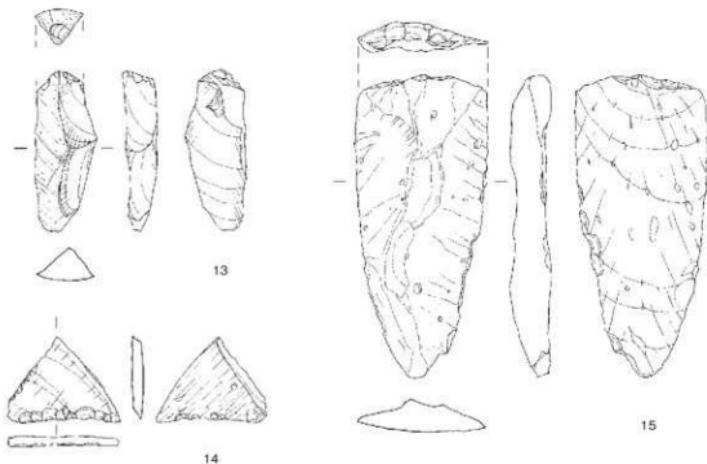


第8図 SX013遺物出土状況実測図 (S=1/20)



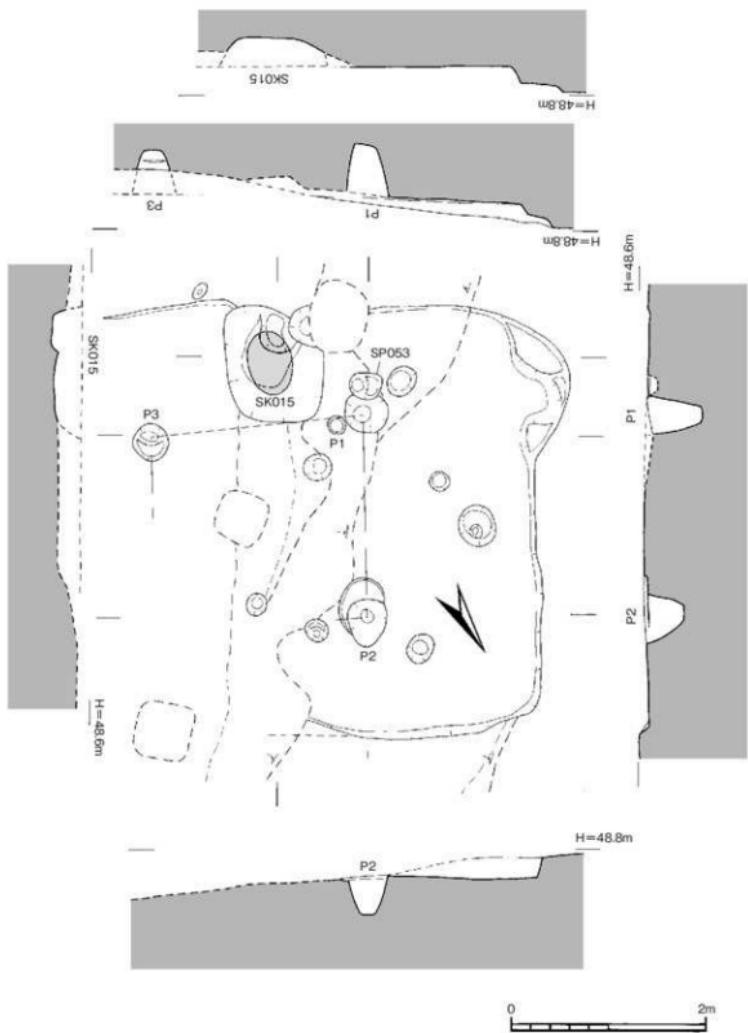
1~3、9~12 SX013 4 SX043G1 5 SX043G6 6 SX043G9 7 SX043G11 8 SX043G14

第9図 SX013・043出土石器実測図1 (S=1/1)

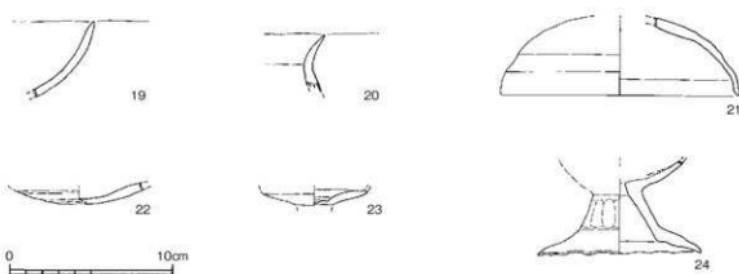


13 SX043G8 14 SX043G9 15・16 SX043G11 17 SX043G17 18 SX013

第10図 SX013・043出土石器実測図2 (18はS=1/3、他はS=1/1)



第11図 SC066実測図 ($S=1/50$)



第12図 SC066出土器実測図 (S=1/3)

SB149 (第13図、図版10) H-I-4・5区で確認した北北東軸 2×2 間 (4.4×4.4 m) の無庇掘立柱建物である。柱間は1.5~2.8mと幅があり、柱の通りもあまり良くない。柱穴は隅丸方形で1辺70~90cm、径20~30cmほどの柱痕跡が良く残っており、深さは20~40cmを測る。SP118・119・112・108・064・012・024から遺物が出土した。SP006・009・026に切られる。

出土遺物 (第15図) SP118・012・006から須恵器の壺 (26・28)・蓋 (27) が出土した。この他、土師器、須恵器小片が出土した。

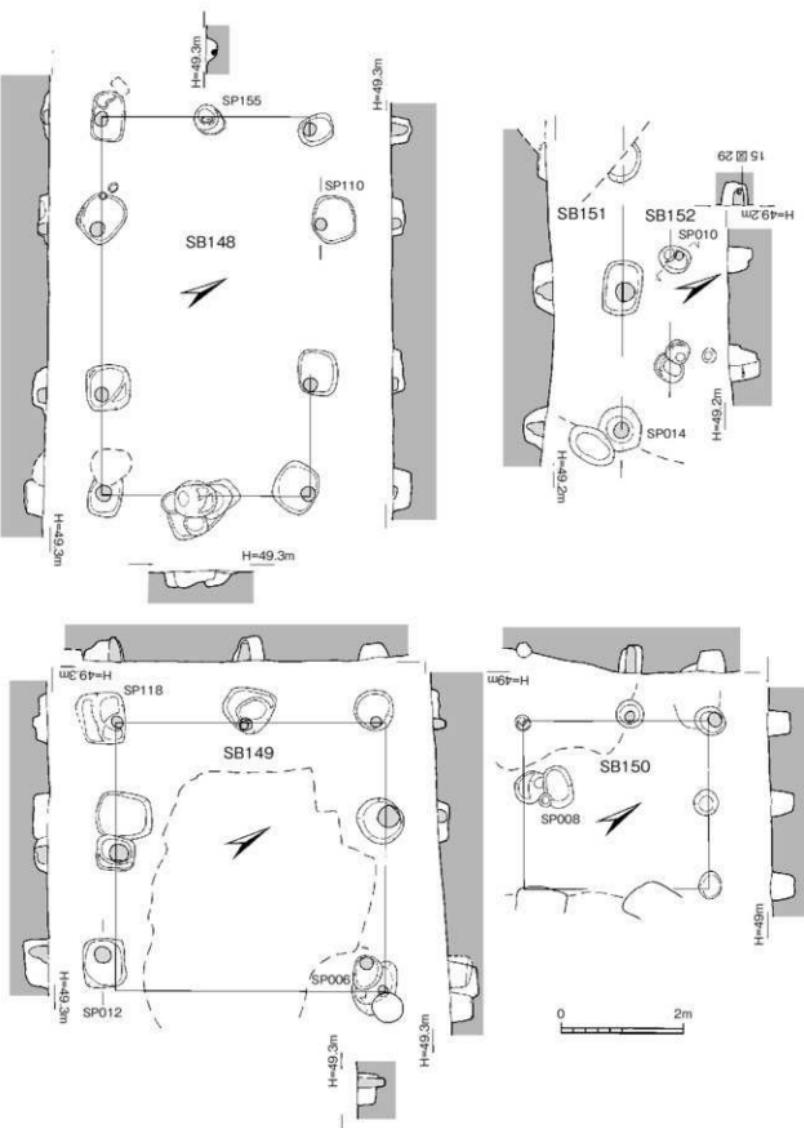
SB150 (第13図) H-5区で確認した北北東軸の 2×2 間 (3×2.7 m) の無庇掘立柱建物である。柱間は1.3~1.8mと幅があり、柱の通りはあまり良くない。南側は削平を受けている。柱穴は円形で径40~50cm、深さは40cmを測る。SP007・026・063から遺物が出土した。SP064を切り、SK025に切られる。

出土遺物 (第15図) SP008から須恵器壺 (33・34) が出土した。この他、土師器・須恵器小片が出土した。

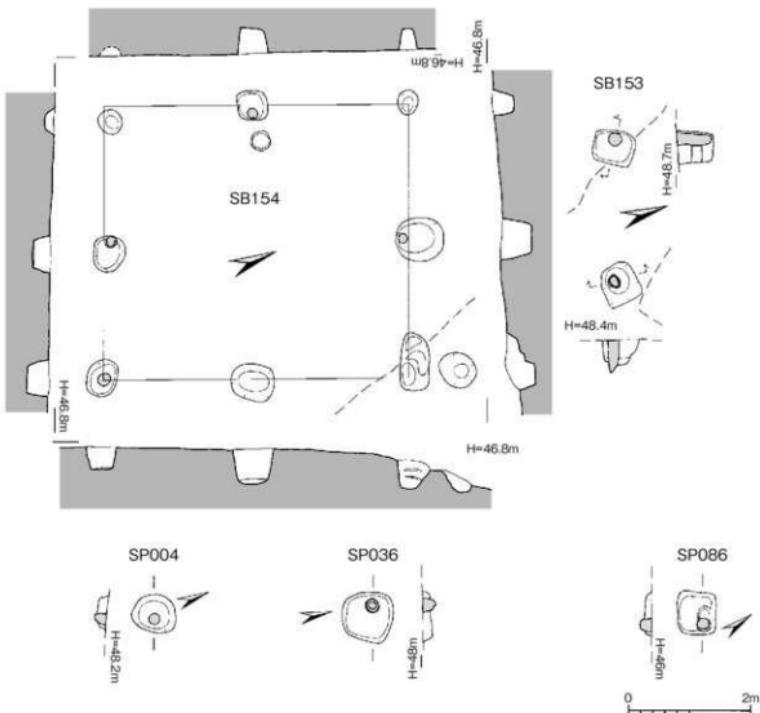
SB151 (第13図) I-5区で確認した西北西軸の掘立柱建物の一部である。柱間は2~2.3mで、柱穴は径70~80cm、径25~30cmほどの柱痕跡を残す。他の柱穴は南側に展開していたと考えられる。SP011・014から遺物が出土した。

出土遺物 (第15図、図版14) SP014から須恵器の壺 (30・31)、三彩の鳥形容器 (32) が出土した。31はタタキ当て具が軸十字の車輪文である。32は、頭頂部・頸部に深緑色、側面部に橙色の釉がわずかに残り、沈線による両目の表現がみられる。遺存が悪く、判然としないが、古代というよりは明代の華南三彩であろう。SP014は別の柱穴に切られており、そこから染付片も出土している。この他、土師器小片が出土した。

SB152 (第13図) I-5区で確認した西北西軸の掘立柱建物の一部である。柱間は1.8mで、柱穴は円形で径40~50cm、深さは40~50cmを測る。SP010の柱痕跡中から高台壺 (29) が出土した。他の柱穴は北側へ展開していたと考える。



第13図 SB148~152実測図 (S=1/80)

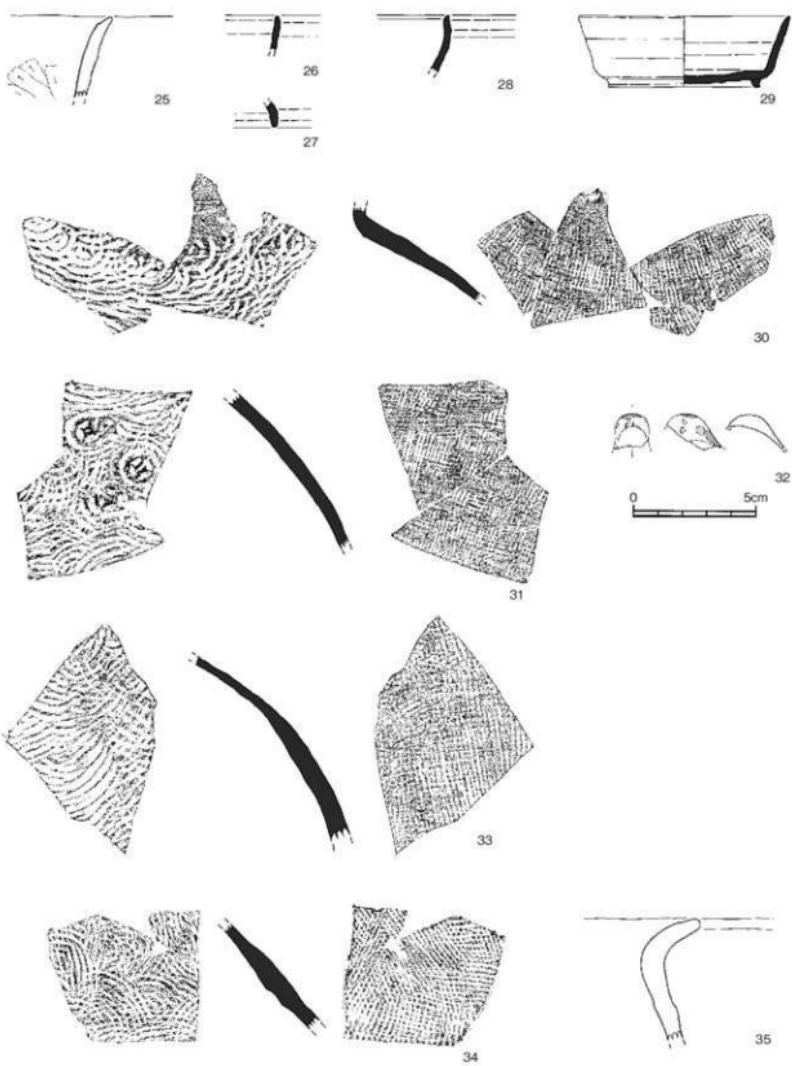


第14図 SB153・154、SP実測図 (S=1/80)

出土遺物（第15図、図版14） 29は須恵器の高台壺である。この他に出土遺物はない。遺物から遺構の時期は8世紀初頭と考える。

SB154（第14図、図版10） C-3・4区で確認した桁行北北東軸 2×2 間 ($5.1 \times 4.5m$) の無庇掘立柱建物である。柱間は2.2~2.6mで、柱の通りは良い。柱穴は隅丸方形、円形で1辺70~80cm、径20cmの柱痕跡が認められ、深さは40~50cmを測る。出土遺物はない。

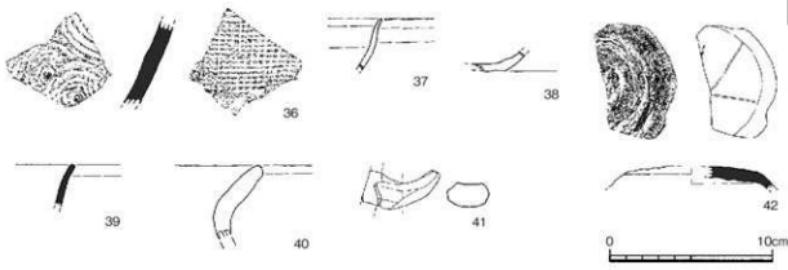
SB153（第14図） I-6区で確認した西北西軸の掘立柱建物の一部である。SP028・035からなり、径50~70cmの隅丸方形で深さ40~60cmを測る。径20cmほどの柱痕跡がよく残り、柱間は2.3mである。図化に耐えない土師器小片が出土した。



SB148 : 25 (SP110) SB149 : 26 (SP118) · 27 (SP012) · 28 (SP006)
 SB152 : 29 (SP010) SB151 : 30~32 (SP014)
 SB150 : 33 · 34 (SP008) 35 SP036

0 10cm

第15図 SB・SP出土遺物実測図 (32はS=1/2、他はS=1/3)



第16図 SP出土土器実測図 (S=1/3)

SP004 (第14図) I-6区で確認した隅丸方形柱穴で、径70cm、深さ16cmを測り、径16cmの柱痕跡を残す。図化に耐えない土師器小片が出土した。

SP036 (第14・15図) I-6区で確認した隅丸方形柱穴で、径90cm、深さ16cmを測り、径20cmの柱痕跡を残す。35は土師器壺である。この他に出土遺物はない。

SP086 (第14図) B-2区で確認した隅丸方形柱穴で、径70cm、深さ12cmを測り、径20cmの柱痕跡を残す。出土遺物はない。

SP出土遺物 (第16図)

SP017 H-5区で確認した円形柱穴で、須恵器壺 (36) が出土した。この他、土師器小片が出土した。

SP021 H-5区で確認した隅丸方形柱穴で、土師器鉢 (37)、壺 (38) が出土した。この他、土師器・須恵器小片が出土した。

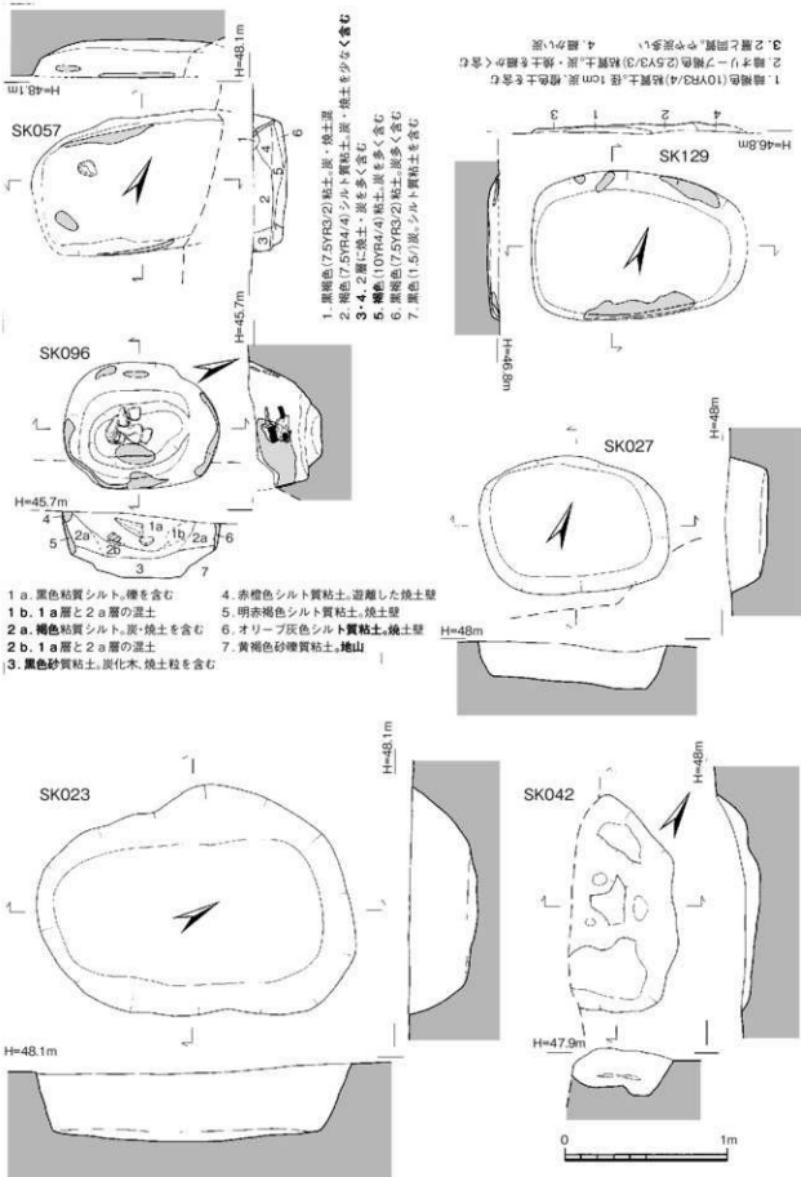
SP030 I-6区で確認した円形柱穴で、須恵器壺 (39) が出土した。この他、土師器・須恵器小片が出土した。

SP031 J-6区で確認した円形柱穴で、土師器の壺もしくは瓶 (40・41) が出土した。この他、土師器小片が出土した。

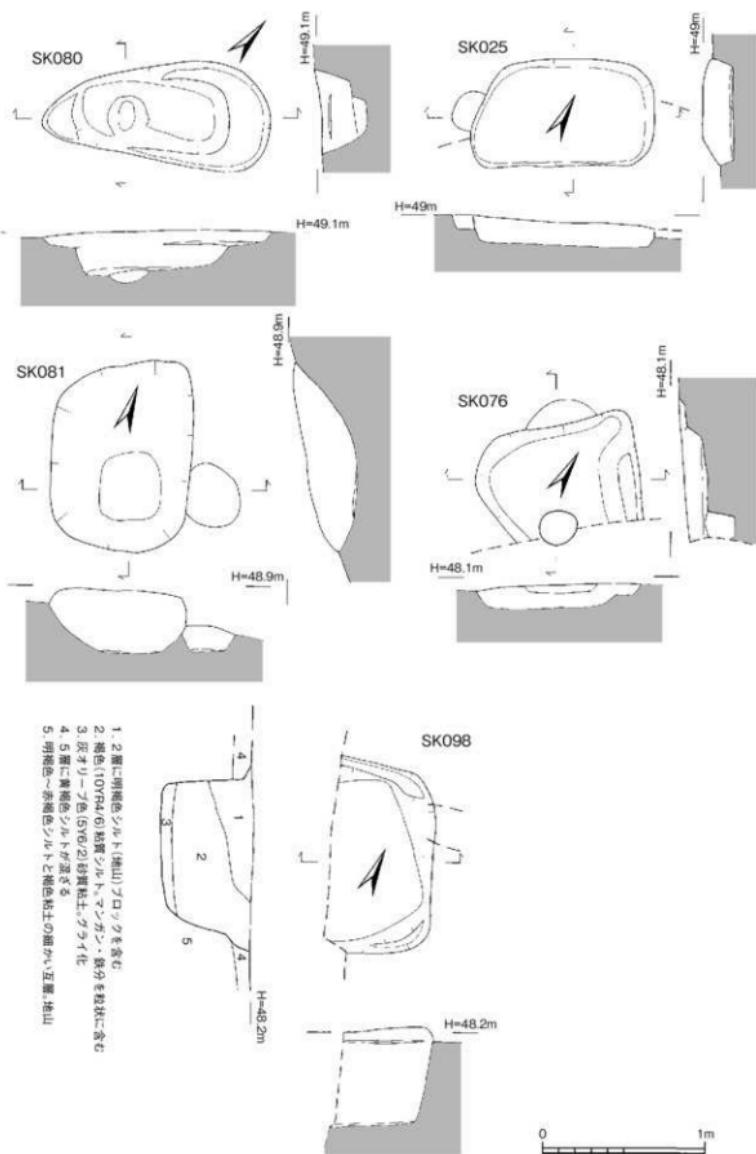
SP061 F-6区で確認した円形柱穴で、須恵器壺蓋 (42) が出土した。天井外面にヘラ記号がみられる。この他、須恵器小片が出土した。

土坑

SK057 (第17図、図版11) E-1区で確認した南西軸の隅丸長方形土坑である。東側を削平されており、残存部分で長さ1.22m、幅0.84m、深さ24cmを測る。断面形は逆台形である。壁面際に赤化した焼土が堆積し、下層に炭が多く含まれた黒褐色土、上層に炭をあまり含まない褐色土が堆積している。図化に耐えない土師器小片が出土した。また、上面～上層に黒曜石片が比較的多く出土しており、南西側で切っているSX013に帰属する遺物が再堆積したと考える。これらについては、SX013出土として整理・報告している。



第17図 SK実測図1 (S=1/30)



第18図 SK実測図2 (S=1/30)

SK129 (第17図、図版11) C-2区で確認した東北東軸の隅丸長方形土坑である。上面の削平が著しく、残存部分で長さ132m、幅0.91m、深さ7cmを測る。平面形は西側の幅がやや広く、断面形は逆台形で、底面はやや凹凸をなす。壁面に赤化した焼土が堆積し、土坑内部には炭を多く含んだ暗褐色土が堆積する。國化に耐えない土師器小片が出土した。

SK096 (第17図、図版11) B-4区で確認した北東軸の楕円形土坑である。長さ0.96m、幅0.77m、深さ45cmを測る。断面形は中央部が一段掘り窪められている。壁面に赤化した焼土が堆積し、下層に炭化木・炭を多く含んだ黒色土、上層に炭と礫を含んだ黒色粘質シルトが堆積する。國化に耐えない土師器小片が出土した。

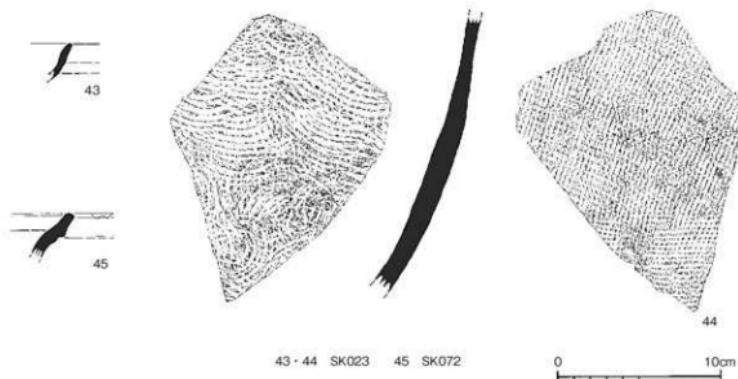
SK023 (第17図、図版11) E-4区で確認した北北東軸の大型隅丸長方形土坑である。長さ1.93m、幅1.4m、深さ47cmを測る。断面形は逆台形で、底面はやや凹凸をなす。埋土は炭化木・炭を多く含んだ褐色粘質シルトである。壁面の被熱や硬化はみられない。

出土遺物 (第19図) 須恵器の坏 (43) と壺 (44) が出土した。その他土師器小片が出土した。

SK027 (第17図、図版11) E-5区で確認した東北東軸の隅丸長方形土坑である。長さ1.17m、幅0.84m、深さ26cmを測る。断面形は逆台形で、東側へわずかに傾斜する。炭を含んだ褐色粘質シルトを埋土とする。國化に耐えない土師器小片が出土した。

SK042 (第17図) E-5区で確認した隅丸方形土坑の一部である。西側を大きく削平されており、残存部分で、幅1.33m、深さ27cmを測る。底面は凹凸をなす。炭を含んだ褐色粘質シルトを埋土とする。遺物の出土はない。

SK080 (第18図、図版12) I-5区で確認した東北東軸の楕円形土坑である。長さ141m、幅0.66m、深さ31cmを測る。北東側の幅が広く、中央部が一段掘り窪められている。炭を含む褐色粘質シ



第19図 SK出土土器実測図 (S=1/3)

ルトを埋土とする。遺物の出土はない。

SK025（第18図、図版12） H-5区で確認した東北東軸の隅丸長方形土坑である。南側を削平されており、残存部分で長さ1.14m、幅0.66m、深さ20cmを測る。断面形は逆台形で、底面は平坦である。埋土は褐色シルト質粘土で、炭の含有は顕著ではない。図化に耐えない須恵器小片が出土した。SB150を切っていることから、遺構の時期は奈良時代以降である。

SK081（第18図、図版12） H-5区で確認した北北西軸の隅丸長方形土坑である。長さ1.18m、幅0.85m、深さ37cmを測る。断面形は逆台形で底面が狭くすぼまる。褐色シルト質粘土を埋土とする。遺物の出土はない。

SK076（第18図） G-5区で確認した北西軸の隅丸方形土坑の一部である。南側を大きく削平されており、残存部分で幅1.01m、深さ15cmを測る。断面形は逆台形である。埋土は褐色シルト質粘土である。図化に耐えない土師器小片が出土した。

SK098（第18図、図版11） I-3区で確認した東北東軸の隅丸方形土坑の一部である。残存部分で幅1.2m、深さ60cmを測る。断面形は逆台形で、底面は平坦である。埋土はグライ化した砂質粘土上に褐色粘質シルトが厚く堆積し、上層に地山ブロックを含んだ褐色土が北に寄った状態で堆積する。他の土坑と異なり、深さがあり、埋土に炭をあまり含まない。遺物の出土はない。性格は判然としないが、陥穴や素掘りの井戸の可能性を指摘しておきたい。

SK072出土遺物（第19図） F-5区で確認した不成形土坑である。須恵器の壺（45）が出土した。

遺物包含層

SX032・037（第4・5図、図版1・2） H-J-6・7区で確認した斜面堆積の遺物包含層である。覆土は黒褐～暗褐色粘質土で、しまり・粘質が強く、砂粒・炭を含む。J-6・7区では人頭大蝶が流れ込んだ状態で堆積していた。SX032とSX037は平面的に連続しないが、同質の包含層と考える。上層が褐色砂質粘土の包含層となり、近世陶磁器片が出土する。

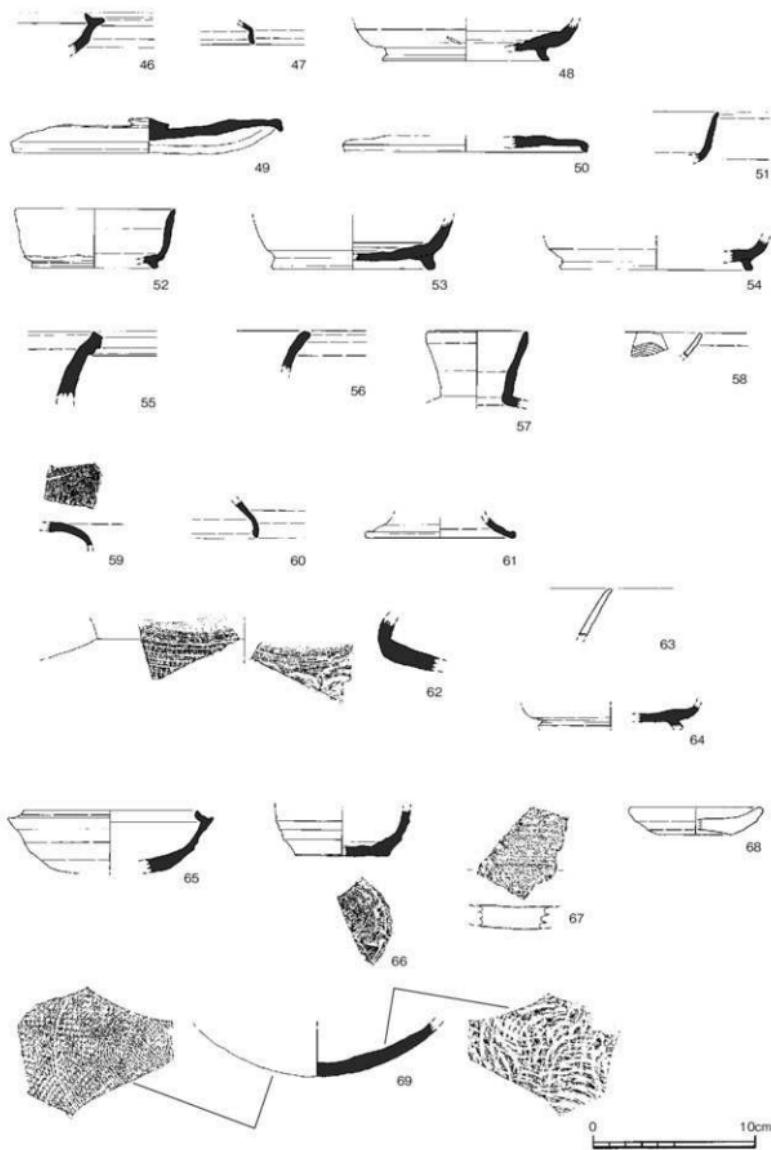
出土遺物（第20図、図版13・14） 須恵器の壺（46）、高台壺（48・51～54）、蓋（47・49・50・59・60）、高壺（61）、壺（55・56）、平瓶（57）、陶器の椀（58）、鉄滓（図版14-59）が出土した。58は、内面が灰黄褐色釉、外面文様部に暗赤褐色釉が施釉される。上層包含層からの混入である。59は外面にヘラ記号がわずかに残る。46～57、58～60の須恵器から、包含層の形成時期は7～8世紀と考える。

SX139・123（第4図） B-D-3～5区で確認した斜面堆積の遺物包含層である。暗褐色～黒褐色シルト質粘土を覆土とする。SX139とSX123は平面的に連続しないが、同質の包含層と考える。また、南北側のSX032・037とも同質の包含層であろう。

出土遺物（第20図） 須恵器の壺（62）、高台壺（64）、青磁碗（63）が出土した。63は内外面に細かい貫入がみられる。上層包含層からの混入である。62・64から、包含層の形成時期は7～8世紀である。

その他出土遺物（第20図、図版13・14）

遺構検出面や上層包含層から、須恵器の壺身（65）、小型鉢（66）、甕（69）、土師質の平瓦片（67）、青磁小皿（68）、近世陶磁器（図版14-60）が出土した。66は底外面にヘラ記号がみられる。68は細かい貫入がみられる。



46~58 SX032 59~61 SX037 62 SX139 63·64 SX123 65~69 條出面

第20図 SX出土土器実測図 (S=1/3)

第1表 出土遺物観察表

番号	区版	番号	遺構	種類	形態	残存	出土量 (cm)	出土・材質	焼成	色調	
12	19	13	56	SC006	土師器	鉢	小片	2mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	淡青緑 (25YR 8/4)	
12	20	13	56	SC006	土師器	壺	1/8	2mm以下の砂粒、表面	良好	にふい橙 (SYR 6/4)	
12	21	13	56	SK015	土師器	壺	1/3	復元口径 146	2mm以下の砂粒をわざずに含む	良好	橙 (SYR 7/8) 領底部横撒土部
12	22	13	56	SK015	土師器	高壺	1/5	復元口径 14, 壱高 52	底部付近に2mm 黒色粒を含む	良好	上部 - 橙 (SYR 7/8), 下部 - 淡青緑 (75YR 8/6)
12	23	13	56	SP05	土師器	高壺	小片	接合部径 24	1mm 以下黑色粒をわざずに含む	良好	外 - 程 (25YR 7/5), 内 - 橙 (SYR 7/6)
12	24	13	56	SK008	土師器	高壺	1/3	脚部径 99	2mm以下の砂粒をやや多く含み, 2mm以下の黑色粒を含む	良好	橙 (SYR 6/8)
15	25		SP110	土師器	瓶	小片		2mm以下の砂粒、表面を含む	良好	明青緑 (25YR 5/6)	
15	26		SP118	土師器	瓶	小片		1mm 以下の砂粒を含む	良好	明灰 (N 3/6)	
15	27		SP012	氣泡器	蓋	小片		1mm 程度の砂粒を含む	良好	灰褐色 (75YR 5/2), 断面 : にふい赤帯 SYR 5/4	
15	28		SP006	氣泡器	壺	1/9 ~ 1/10		2mm以下の砂粒を含む	良好	暗青灰 (10BG 4/1), 断面 - 暗青灰 (25YR 3/3)	
15	29	14	56	SP010	氣泡器	高台壺	1/3	復元口径 129, 高台径 9.2, 壱高 4.3	2mm以下の砂粒を含む	良好	外 - 黒 (N 4/7), 内 - 黒 (N 4/4) と赤 (10R 5/1) の混じり
15	30		SP008	氣泡器	壺	小片		1mm 程度の砂粒をわざずに含む	良好	外 - 赤系 (10R 5/1), 内 - 黒灰 (SYR 8/1)	
15	31	14	56	SP014	氣泡器	要	小片	1mm 程度の砂粒をわざずに含む	良好	外 - 黒 (N 5/1), 内 - 黑灰 (SYR 8/1)	
15	32	14	56	SP014	三彩	鳥形	小片	頭部幅 14cm	粗糲	良好 黄褐色, 線模様と褐色の釉	
15	33		SP008	氣泡器	壺	小片		4mm 以下の砂粒, 黑色粒含む	良好	外 - 黑 (N 7/1), 内 - 黑白 (25Y 7/1)	
15	34		SP008	氣泡器	壺	小片		2mm以下の砂粒を含む	良好	外 - 黑 (N 4/4), 内 - 黑白 (10YR 8/1)	
15	35		SP036	土師器	壺	1/10		5mm以下の砂粒をわざずに含む	良好	淡青緑 (25YR 8/6)	
16	36		SP017	氣泡器	壺	小片		1mm 程度の黑色粒を含む	良好	内 - 黑黄 (25YR 7/2), 外 - 明黄褐 (10YR 6/6), 自然釉 (25YR 3/1)	
16	37		SP021	土師器	鉢	小片		2mm以下の砂粒をわざずに含む	良好	明青 (10YR 8/6)	
16	38		SP021	土師器	壺	小片		1mm 程度の砂粒をわざずに含む	良好	外 - 橙 (25YR 6/8), 内 - 程 (7.5YR 7/6)	
16	39		SP030	風呂形	壺	小片		2mm以下の砂粒をわざずに含む	良好	灰 (7.5Y 6/1)	
16	40		SP031	土師器	壺	小片		3mm 以下の砂粒やや多い, 2mm 以下 黒色粒含む, 1mm 以下 黑色粒含む	良好	橙 (7.5YR 7/6)	
16	41		SP031	土師器	蓋・瓶	把手		3mm 以下の砂粒を多く含む	良好	橙 (2.5YR 6/8)	
16	42	14	56	SP061	氣泡器	蓋	1/2	15mm 程度の砂粒を含む	良好	青灰 (10BG 5/1)	
19	43		SK023	氣泡器	壺	小片		黑色粒をわざずに含む	良好	灰色 (5Y 7/1)	
19	44		SK023	氣泡器	壺	小片		2mm以下の砂粒を含む	良好	外 - 黑 (N 4/4), 内 - 黑白 (10YR 8/1)	
19	45		SK072	氣泡器	壺	小片		1mm 程度の砂粒をわざずに含む	良好	外 - 黑 (10Y 2/1), 内 - 淡黄 (25Y 7/4)	
20	46		SX033	氣泡器	身	小片		3mm 以下の砂粒を多く含み, 1mm 黑色粒をわざずに含む	良好	青灰 (5B 5/1)	
20	47		SX032	氣泡器	身蓋	小片		1mm 以下の砂粒を少し含む	良好	灰白 (N 7/7)	
20	48	13	57	SX032	氣泡器	身	1/6	復元高台径 10.2	2mm 以下砂粒, 黑色粒を含む	良好	灰 (N 5/7)
20	49	13	57	SX032	氣泡器	壺	1/3	つまみ押 25, 壱高 16.6, 直径 22	2mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	灰 (N 4/4)
20	50		SX032	氣泡器	壺	1/8	復元径 15.0	1mm 砂粒, 黑色粒を含む	良好	灰白 (N 7/7)	
20	51		SX032	氣泡器	身	小片		2mm 以下砂粒, 1mm 黑色粒を含む	良好	外 - 黑赤 (7.5R 5/2), 内 - 青灰 (5B 5/1)	
20	52	13	57	SX032	氣泡器	高台壺	1/6	復元口径 9.2, 高台径 5.4, 壱高 3.6	2mm以下の砂粒をやや多く含み, 1mm 砂粒を含む	良好	外 - 黑 (N 6/1) - 黑褐 (10YR 3/1), 内 - 黑 (N 5/5), 暗青灰 (10R 4/2)
20	53	13	57	SX032	氣泡器	身	1/8		3mm 以下の砂粒をやや多く含み, やや黒色粒を含む	良好	外 - 緑褐 (5G 5/1), 内 - 明オーラーブ灰 (5G 7/7)
20	54		SX032	氣泡器	高台壺	1/4		2mm以下の砂粒を少し含み, 1mm 砂粒の砂粒を含む	良好	青灰 (5B 5/4)	
20	55		SX032	氣泡器	蓋	小片		1mm 砂粒の砂粒を含む	良好	灰白 (N 7/7), 雰青灰 (5B 4/1)	
20	56		SX032	氣泡器	壺	小片		1mm 砂粒, 黑色粒をわざずに含む	良好	灰白 (N 7/7)	
20	57	13	57	SX032	氣泡器	平瓶	1/3	2mm 以下の砂粒を含み, 2mm 以下の黑色粒をわざずに含む	良好	外 - 暗灰 (N 3/3), 黑白 (N 7/7), 内 - 黑 (N 5/5), 雰青灰 (3/3)	
20	58		SX032	陶器	碗	小片		2mm 以下の砂粒を含む	良好	外 - 暗青灰 (5YR 3/2), 内 - 黄青 (10YR)	
20	59		SX037	氣泡器	蓋	小片		2mm 以下の砂粒を含む	良好	外 - 黑 (2.5YR 2/1), 内 - 黑 (N 5/5)	
20	60		SX037	氣泡器	壺蓋	小片		1mm 程度の砂粒を含み, 1mm 程度の墨色をわざずに含む	良好	灰 (N 6/6)	
20	61		SX037	氣泡器	真坏	小片		細織な黑色粒を含む	良好	暗灰 (N 3/6)	
20	62		SX139	氣泡器	壺	1/9	復元頭部径 18	2mm 以下の砂粒を含む	良好	灰 (N 6/6)	
20	63		SX123	青磁	碗	小片		粗糲	良好	明青緑 (25YR 7/6), オーリーブ黄 (5Y 6/4)	
20	64		SX123	氣泡器	壺	1/4		2mm 以下の砂粒, 黑色粒を含む	良好	灰 (N 6/6), 外一部 暗灰 (N 3/3)	
20	65	13	57	SD002	氣泡器	身	1/5	復元口径 10.7, 最大径 12.6	2mm 以下の砂粒をやや多く含む	良好	灰 (10Y 5/1)
20	66	13	57	I区横出	氣泡器	鉢	1/3	復元底径 6.0	3mm 以下の砂粒をやや多く含む。1mm 以下の黑色粒を含む	良好	灰 (N 6/6)
20	67	13	57	I4区	土師質瓦	平瓦	小片		2mm 以下。1mm 黑色粒をわざずに含む	良好	黄灰 (2.5Y 1/1), 断面 - 程 (25YR 6/8)
20	68	13	57	1-2区 土中	青磁	小皿	1/4	復元口径 8.2, 壱高 1.7	1mm 砂粒, 黑色粒をわざずに含む	良好	外 - 黑白 (N 7/7), 内 - オーリーブ黄 (5Y 1/4)
20	69		I区客	氣泡器	蓋	1/8		2mm 以下の砂粒を少し含む	良好	灰 (N 5/5)	

第2表 出土石器観察表

番号の()内は実測箇所番号、長さ・幅の[]内は残存部法量

造形	番号	分類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)
SX013	D	残核	黒曜石	1.85	1.3
SX013	E	剥片小	黒曜石	1.9	1.1
SX013	H	剥片大	黒曜石	1.5	0.95
SX013	I	剥片大	黒曜石	1.55	1.9
SX013	K (96G2)	石礫	黒曜石	2.8	1.55
SX013	L1	剥片小	黒曜石	1.95	0.9
SX013	M1	剥片大	黒曜石	[0.09]	1.15
SX013	N1	剥片小	黒曜石	1.2	1.35
SX013	T1	剥片小	黒曜石	0.5	1.4
SX013	T2	剥片大	黒曜石	[0.07]	1
SX013	U	剥片大	黒曜石	1.4	0.95
SX013	V	剥片大	安山岩	0.9	1
SX013	X1	剥片小	黒曜石	1.78	1.45
SX013	Z	剥片大	黒曜石	1.2	1.1
SX013	2	剥片大	黒曜石	1.1	1
SX013	5	剥片小	黒曜石	1.25	1.35
SX013	10 (96G9)	剥片大	黒曜石	2.05	2.75
SX013	12	剥片小	黒曜石	1.3	1.2
SX013	13	剥片大	黒曜石	1.1	0.9
SX013	14	剥片小	黒曜石	1.1	1.3
SX013	16	剥片大	黒曜石	1.1	0.9
SX013	18	剥片大	黒曜石	1.4	1.9
SX013	24	剥片小	黒曜石	1.9	1
SX013	25	剥片大	黒曜石	0.7	0.9
SX013	26	剥片大	黒曜石	0.5	0.9
SX013	28	剥片大	黒曜石	[0.76]	1.1
SX013	31	剥片大	黒曜石	0.8	1
SX013	34	剥片大	黒曜石	0.6	0.9
SX013	35	剥片大	安山岩	0.8	1
SX013	36	剥片小	黒曜石	0.7	1.3
SX013	43	剥片大	黒曜石	1.4	0.6
SX013	46	剥片小	黒曜石	2.2	1.1
SX013	50	剥片大	黒曜石	2	1.8
SX013	51	石礫	黒曜石	1.5	1.2
SX013	52	剥片大	黒曜石	1.5	1.4
SX013	54	剥片大	黒曜石	0.6	0.9
SX013	55	剥片大	黒曜石	1.5	1.8
SX013	63	剥片大	黒曜石	1.7	1.95
SX013	66	剥片小	黒曜石	2	1.1
SX013	71	剥片大	黒曜石	0.5	0.95
SX013	74	剥片小	黒曜石	1.8	0.8
SX013	78	剥片大	黒曜石	[0.9]	0.9
SX013	83	剥片小	黒曜石	0.7	1.4
SX013	85	剥片大	黒曜石	0.7	0.9
SX013	87	剥片小	黒曜石	1.9	1.2
SX013	89	剥片大	黒曜石	1.4	0.7
SX013	91	剥片大	黒曜石	0.9	1
SX013	92	剥片大	黒曜石	1	1
SX013	93	剥片大	黒曜石	[1]	1.1
SX013	97	剥片大	黒曜石	1.2	1
SX013	100	剥片大	黒曜石	1.05	1.15
SX013	103	剥片大	黒曜石	0.67	0.98
SX013	104	剥片大	安山岩	0.8	1.2
SX013	105	剥片大	黒曜石	0.96	1.58
SX013	109	剥片小	黒曜石	1.2	1.32
SX013	115	剥片大	黒曜石	1.5	1.62
SX013	118 (96G3)	石礫	黒曜石	2.15	1.3
SX013	119	剥片大	黒曜石	0.82	1.79
SX013	122 (96G20)	剥片大	黒曜石	3.25	1.86
SX013	123 (96G11)	剥片大	黒曜石	2.57	1.68
SX013	124	剥片小	黒曜石	2.1	1.41
SX013	126	剥片大	黒曜石	1.23	1.14
SX013	128	剥片大	黒曜石	1.43	1.15
SX013	132	剥片小	安山岩	[1.11]	1.33
SX013	135	剥片大	黒曜石	1.92	1.6
SX013	136	剥片小	黒曜石	2.11	1.3
SX013	137	剥片大	安山岩	1.11	2.29
SX013	139	剥片小	黒曜石	1.54	1.3
SX013	143	剥片小	黒曜石	1.64	1.42
SX013	144	剥片小	黒曜石	[1.72]	1.1
SX013	146	剥片大	黒曜石	1.29	1.12
SX013	151	剥片大	黒曜石	1.04	1.57
SX013	152	剥片大	黒曜石	1.16	1.14
SX013	154	剥片大	黒曜石	1.31	1.52
SX013	155	剥片大	黒曜石	1.63	0.88
SX013	156	剥片大	黒曜石	1.44	0.97
SX013	158	剥片大	黒曜石	1.41	0.65
SX013	159	剥片大	黒曜石	1.65	1.14
SX013	160	剥片小	黒曜石	1.42	1.24

造形	番号	分類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)
SX013	161	剥片大	黒曜石	1.43	1.76
SX013	162	剥片小	黒曜石	1.92	0.79
SX013	163	剥片大	黒曜石	1.54	0.66
SX013	165	剥片大	黒曜石	2.68	1.66
SX013	168	剥片小	黒曜石	1.41	1.36
SX013	171	剥片小	黒曜石	2.08	1.04
SX013	172	剥片大	黒曜石	1.34	1.54
SX013	173	剥片大	黒曜石	1.31	0.96
SX013	176	剥片大	安山岩	1.4	0.88
SX013	178 (96G12)	剥片大	安山岩	1.36	2.58
SK057	1 (96G1)	石礫	安山岩	2.8	1.8
SK057	5	剥片小	黒曜石	1.69	1.18
SK057	6	剥片小	黒曜石	2.04	1.15
SK057	7	剥片小	黒曜石	1.77	1.18
SK057	16	剥片大	黒曜石	1.6	1.06
SK057	19	剥片大	黒曜石	1.48	0.76
SK057	20	剥片大	黒曜石	0.72	0.93
SK057	21	剥片小	黒曜石	1.76	1.31
SK057	24	剥片大	黒曜石	1.56	0.64
SK043G1	3	剥片大	黒曜石	1.73	1.56
SK043G1	6	剥片小	黒曜石	1.71	0.89
SK043G1	7 (96G4)	石礫	黒曜石	1.9	1.4
SK043G1	16	剥片大	黒曜石	0.74	1.63
SK043G1	20	剥片大	黒曜石	0.73	0.96
SK043G1	22	剥片大	黒曜石	1.32	1.5
SK043G1	25	剥片大	安山岩	0.75	1.14
SK043G1	26	剥片大	黒曜石	1.28	1.05
SK043G1	27	剥片小	安山岩	1.45	1.47
SK043G1	31	剥片大	黒曜石	1.02	0.95
SK043G1	32	剥片大	黒曜石	1.13	1.03
SK043G1	33	剥片小	安山岩	1.64	1.77
SK043G1	35	剥片大	黒曜石	1.5	0.97
SK043G1	41	剥片大	黒曜石	1.85	1.73
SK043G1	44	剥片大	黒曜石	1.03	0.64
SK043G1	48	剥片大	黒曜石	0.85	0.92
SK043G1	50	剥片大	安山岩	1.23	1.09
SK043G1	51	剥片大	黒曜石	1.07	1.14
SK043G1	52	剥片大	黒曜石	1.26	2.65
SK043G1	55	剥片大	黒曜石	2.77	1.96
SK043G1	56	剥片大	黒曜石	0.95	1.58
SK043G1	57	剥片大	黒曜石	2.04	1.89
SK043G1	58	剥片大	安山岩	0.56	0.82
SK043G1	59	剥片大	黒曜石	1.59	0.63
SK043G1	63	剥片小	黒曜石	0.74	1.32
SK043G1	64	剥片大	黒曜石	2.47	2.16
SK043G1	78	剥片大	黒曜石	1	0.97
SK043G1	85	剥片大	黒曜石	1.14	0.91
SK043G1	86	剥片大	黒曜石	0.52	0.93
SK043G1	87	剥片大	黒曜石	0.84	1.09
SK043G1	89	剥片大	黒曜石	0.43	1.09
SK043G1	91	剥片大	黒曜石	1.59	2
SK043G1	95	砂片大	黒曜石	1.08	0.97
SK043G1	96	砂片大	黒曜石	1.38	1.07
SK043G1	97	砂片大	安山岩	0.47	0.81
SK043G1	101_1	剥片小	黒曜石	1.81	1.44
SK043G2	1	砂片大	黒曜石	1.63	1.75
SK043G2	8	砂片大	黒曜石	0.69	1.05
SK043G2	9	砂片大	黒曜石	1.97	1.18
SK043G2	11	砂片大	黒曜石	1.19	1.07
SK043G2	23	砂片大	黒曜石	0.7	1.09
SK043G2	36	砂片大	黒曜石	0.44	0.97
SK043G2	37	砂片小	黒曜石	2.01	1.34
SK043G2	38	砂片大	黒曜石	1.22	0.93
SK043G2	39	砂片大	黒曜石	1.31	0.96
SK043G2	4	砂片大	黒曜石	1.28	0.95
SK043G3	13	砂片大	黒曜石	1.43	1.15
SK043G3	15	砂片小	黒曜石	1.54	1.22
SK043G3	19_1	砂片大	黒曜石	1.75	2.24
SK043G3	19_2	砂片大	黒曜石	1.61	0.96
SK043G3	22	砂片大	黒曜石	2.24	1.73
SK043G3	28	砂片小	黒曜石	1.93	1.05
SK043G3	30	砂片大	黒曜石	1.08	0.97
SK043G3	31	砂片大	黒曜石	1.79	1.27
SK043G3	34	砂片小	黒曜石	1.75	1.19
SK043G3	36	砂片大	黒曜石	1.3	1.11
SK043G3	39	砂片大	黒曜石	1.41	0.93
SK043G3	44	砂片大	黒曜石	1.4	0.81
SK043G3	47	砂片小	黒曜石	1.64	1.24
SK043G3	53	砂片小	黒曜石	0.72	1.29

地塊	番号	分類	石材	長さ(cm)	幅(cm)
SX04G3	57	碎片大	安山岩	14	099
SX04G3	60	碎片大	黑曜石	141	108
SX04G4	2	碎片大	黑曜石	126	105
SX04G4	3	碎片大	黑曜石	165	087
SX04G4	5	碎片小	安山岩	151	133
SX04G4	7	碎片大	黑曜石	135	082
SX04G4	10	碎片小	黑曜石	16	127
SX04G5	7	碎片大	黑曜石	[125]	091
SX04G5	12	碎片小	黑曜石	159	135
SX04G5	15	碎片小	安山岩	071	152
SX04G6	1	石礫	黑曜石	[138]	[055]
SX04G6	2 [9865]	石礫	黑曜石	25	16
SX04G6	5	碎片大	黑曜石	095	166
SX04G6	8	碎片大	黑曜石	112	182
SX04G6	9	碎片大	黑曜石	067	113
SX04G6	12	碎片大	黑曜石	[101]	094
SX04G8	2	碎片大	黑曜石	[023]	125
SX04G8	6 [100513]	碎片大	黑曜石	333	123
SX04G9	5	碎片小	黑曜石	215	145
SX04G9	8	碎片大	黑曜石	298	141
SX04G9	10 [9006]	石礫	黑曜石	25	15
SX04G9	12	碎片大	黑曜石	038	098
SX04G9	13	碎片大	黑曜石	076	103
SX04G9	14 [100514]	碎片小	安山岩	206	188
SX04G10	1	碎片大	黑曜石	155	087
SX04G10	2	碎片大	黑曜石	251	187
SX04G10	5	碎片大	黑曜石	128	196
SX04G11	4	碎片大	黑曜石	056	111
SX04G11	7	碎片大	黑曜石	101	1
SX04G11	11	碎片大	黑曜石	301	158
SX04G11	13	碎片小	黑曜石	146	122
SX04G11	14 [9007]	石礫	安山岩	25	16
SX04G11	15 [100615]	碎片大	安山岩	636	273
SX04G11	16	碎片小	黑曜石	1	148
SX04G11	17	碎片大	黑曜石	185	163
SX04G11	19	碎片大	黑曜石	171	151
SX04G11	20 [100516]	碎片大	黑曜石	32	125
SX04G13	2	碎片大	黑曜石	[086]	113
SX04G14	1	碎片大	黑曜石	063	109
SX04G14	2	碎片大	黑曜石	153	106
SX04G14	7	碎片大	黑曜石	157	074
SX04G14	9	碎片小	黑曜石	089	125
SX04G14	10	碎片小	黑曜石	167	129
SX04G14	22 [9588]	石礫	黑曜石	22	1
SX04G15	1	碎片小	黑曜石	168	12
SX04G15	5	碎片大	黑曜石	198	169
SX04G15	7	碎片大	黑曜石	126	095
SX04G16	6	碎片大	黑曜石	099	092
SX04G17	1 [100617]	碎片大	黑曜石	272	228
SX04G17	2	碎片大	黑曜石	102	093
SX04G18	1	碎片大	黑曜石	[155]	213
SX04G18	3	碎片大	安山岩	127	103
SX04G19	1,1	碎片大	黑曜石	157	108

地塊	番号	分類	石材	長さ(cm)	幅(cm)
SX052	1,1	碎片	黑曜石	169	096
SX052	1,2	碎片	黑曜石	134	122
SX055	1,1	調片	黑曜石	347	205
SX055	1,2	調片	黑曜石	263	151
SX055	1,3	調片	安山岩	251	157
SX055	1,4	調片	黑曜石	201	122
SX055	1,5	碎片	黑曜石	169	116
SX055	1,6	碎片	黑曜石	175	111
SX055	1,7	碎片	黑曜石	177	126
SX055	1,8	碎片	黑曜石	19	099
SX055	1,9	碎片	黑曜石	175	136
SX055	1,10	碎片	黑曜石	146	122
SX055	1,11	碎片	黑曜石	142	101
SX055	1,12	碎片	黑曜石	157	091
SX055	1,13	碎片	黑曜石	134	095
SX055	1,14	碎片	黑曜石	125	1
SX055	1,15	碎片	黑曜石	115	082
SX055	1,16	碎片	黑曜石	1	075
SX055	1,17	碎片	黑曜石	097	057
SX055	1,18	碎片	黑曜石	085	075
SX088	1	碎片	黑曜石	203	069
SX089	1	調片	黑曜石	189	128
SX090	1	調片	黑曜石	168	074
SX124	1	調片	黑曜石	149	144
SX125	1,1	調片	黑曜石	314	09
SX125	1,2	調片	黑曜石	24	122
SX125	1,3	調片	黑曜石	19	104
SX125	1,4	調片	黑曜石	175	085
SX125	1,5	碎片	黑曜石	133	067
SX125	1,6	碎片	黑曜石	12	065
SX125	1,7	碎片	黑曜石	106	089
SX125	1,8	碎片	黑曜石	099	071
SX126	1,1	調片	黑曜石	241	126
SX126	1,2	調片	安山岩	17	114
SX127	1,1	石核	黑曜石	27	138
SX127	1,2	碎片	黑曜石	101	063
SX128	1,1	調片	黑曜石	2	16
SX128	1,2	碎片	黑曜石	073	064
SX131	1,1	調片	黑曜石	31	19
SX131	1,2	碎片	黑曜石	194	09
SX131	1,3	碎片	黑曜石	153	127
SX131	1,4	碎片	黑曜石	07	064
SX133	1	調片	黑曜石	314	161
SX133	1,1	調片	黑曜石	242	118
SX133	1,2	調片	黑曜石	205	126
SX133	1,3	碎片	黑曜石	144	091
SX133	1,4	碎片	黑曜石	122	06
SX133	1,5	碎片	黑曜石	1	071
SX133	1,6	碎片	黑曜石	088	055
SX133	1,7	碎片	黑曜石	093	086
SX133	1,8	碎片	黑曜石	068	05
SX133	1,9	碎片	黑曜石	054	05
SX144	1,1	調片	黑曜石	283	235
SX144	1,2	調片	黑曜石	198	14
SX144	1,3	碎片	黑曜石	069	044
SX145	1,1	調片	安山岩	28	232
SX145	1,2	調片	黑曜石	26	17
SX145	1,3	碎片	黑曜石	152	102
SX145	1,4	碎片	黑曜石	108	102
SX145	1,5	碎片	黑曜石	109	082
SP045	1	白色+++		533	469
SK096	1,1	調片	黑曜石	354	201
SK096	1,2	調片	黑曜石	161	138
SK096	1,3	碎片	黑曜石	102	051
SP049	1	調片	黑曜石	222	132
SD054	1,1	調片	黑曜石	296	142
SD054	1,2	碎片	黑曜石	097	086
SX099	1	調片	黑曜石	143	127
SD121	1	碎片	黑曜石	101	08
SD122	1	碎片	黑曜石	131	069
SD123	1	碎片	黑曜石	072	06
SP132	1	碎片	黑曜石	104	083
SP138	1	調片	黑曜石	156	072
1B4 植物面	1	碎片	黑曜石	07	058
1-2K 細土	1,1	調片	黑曜石	355	254
1-2K 細土	1,2	使用瓶調片	黑曜石	159	139
3K 北東 植物面	1,1	調片	黑曜石	242	204
3K 北東 植物面	1,2	碎片	黑曜石	153	091
3K 北東 植物面	1,3	碎片	黑曜石	127	108
3K 西 植物面	1	調片	黑曜石	308	175
4K 植物	1	碎片	安山岩	179	095
4K 植物	1	碎片	黑曜石	132	072

第V章 総括

本調査では、かろうじて削平を免れた堅穴建物・掘立柱建物・土坑・包含層などを確認した。出土遺物は7世紀後半から8世紀初頭の土器が主体で、縄文時代早期、6世紀代、近世の遺物が少量出土した。以下では、既述の調査成果を補足しつつ通時的に整理し、総括に代えたい。

縄文時代 SX013・043に集中した黒曜石・安山岩片は、鋸形打製石器の管理・製作に関わる剥片・碎片であり、鋸形器が盛行する縄文時代早期中葉・押型文土器期に形成されたと考えられる。ただし遺物包含層が遊離して再堆積したと考えられる黄褐色粘質土と重複しており、剥片類は原位置から大きく移動していると考えられる。旧地形では、調査地点は南東に谷を臨む丘陵上にあり、縄文時代の痕跡は、谷底の水場に集まる動物を狙った待ち伏せ獵のための一時的な滞在、キャンプ地に関わると想定している。これらの石器・剥片類は、本来石器ブロックをなしていたと考えるが、埋没過程において大きな搅拌作用を受けている。この作用は、風倒木のような自然營力だけでなく、後述するような後世の人為的影響の可能性も考えられる。

弥生時代 本調査では弥生時代の遺構・遺物はほとんど確認されなかった。隣接調査区でも顯著な様相は示さず、乙石遺跡においては該期から5世紀代までが空白期となる。

古墳時代 SC066は6世紀代の4本主柱穴構造の方形堅穴建物で、南壁際中央に残った炉跡はカマドの可能性もある。城田遺跡2次調査報告では、6～7世紀の堅穴建物を、床面積でA群（60m²以上）、B群（30～50m²）、C群（20～30m²）、D（20m²以下）に分類し、軒数をA・B：C：D=1：3：6としている（宮井編2008）。SC066は推定床面積16m²で、D群に該当し、一般的な規模と言える。乙石遺跡第3次調査の住居跡3は23.5m²でC群に該当する。この堅穴建物は、本地域で6世紀代にはじまる活発な集落形成と墳墓造営に関わると考えられる。

飛鳥～奈良時代 出土遺物が少なく判然としないが、掘立柱建物と炭・焼土土坑は8世紀初頭前後に形成されたと考えておきたい。掘立柱建物は側柱以外に構造物が把握できず、出土遺物も少ないため性格は不明である。北北東・西北西に軸を合わせており、ある程度の計画的な配置をうかがえるが、城田遺跡第2次調査や都地遺跡第6次調査のような掘立柱建物のコ字・L字の配列は認められない。都地遺跡第6次調査の大型掘立柱建物群からは、南西へ250mほど離れており、官衙城周辺と位置づけられるかもしれない。周辺調査区の成果と合わせると、乙石一帯の丘陵上および谷斜面には6世紀以降、製鉄関連の作業を担った集団が居住したと考えられ、そこに繁茂した草本・樹木を居住・作業スペースおよび製鉄の燃料確保のために持続的に広く開発したことが予想される。この際の伐採・伐根が、黄褐色粘質土のブロック状再堆積(下層包含層の搅拌)の成因になった可能性を指摘しておきたい。黄褐色粘質土からは、黒曜石・安山岩片の他に土器小片が出土することとも矛盾はない。

平安時代～近世 本調査では平安時代～中世の遺構・遺物はほとんど確認されなかった。周辺調査区では、散漫ながらも遺構・遺物が確認されており、小規模な土地利用が考えられる。包含層SX001・034、筋状の耕作痕、少數の柱穴などから、近世陶磁器片が出土した。この埋立土や耕作土は、調査区全面を覆っているため、この時期に丘陵上の開墾と谷の埋め立てが本格的に行われたと考える。

以上、乙石遺跡では未だ不明点が多いが、6～9世紀の様相が非常に注目される。周辺の都地・城田・浦江・金武青木A遺跡、吉武・金武古墳群も含めて、今後とも周辺の開発には注意が必要である。

引用文献 宮井善朗編(2008)『金武5』(福岡市埋蔵文化財調査報告書第1016集)、福岡市教育委員会

付篇 乙石遺跡第3次調査出土石器（補遺）

乙石遺跡第3次調査（宮井善朗編2008『金武5』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第1016集））福岡市教育委員会）では、8世紀代を中心とした遺構から、遺構の埋没時期を示さない縄文～弥生時代の石器が數十点出土した。ここではその未報告資料の一部について報告を行う（第1図、図版15～62）。

1は、M16出土の安山岩製の二等辺三角形有脚鎌である。先端を欠損する。残存長3.8cm、最大幅1.9cm、最大厚0.4cm、重量2.1gを測る。丁寧な押圧剥離で仕上げられる。復元長は4.3cmと比較的大きく、脚部が内側にすぼまる特徴的な形態をもつ。

2は、P24出土の安山岩製の二等辺三角形有脚鎌である。先端・脚端を欠損する。残存長2.9cm、最大幅1.8cm、最大厚0.5cm、重量1.7gを測る。

3は、推乱出土の安山岩製の二等辺三角形有脚鎌である。基部側から破断して後面半分を欠損する。長さ2.5cm、最大幅1.5cm、残存厚0.3cm、重量0.7gを測る。

4は、表面採集の黒曜石製の二等辺三角形鍬形鎌である。完形である。長さ3.15cm、最大幅2.45cm、最大厚0.45cm、重量1.9gを測る。丁寧な押圧剥離で精巧に仕上げられる。脚部外端が下方へ張り出す特徴をもつ。

5は、8世紀代の包含層状性格不明遺構M12西下層出土の灰黒色黒曜石製の二等辺三角形平基鎌である。完形である。長さ2.25cm、最大幅1.6cm、最大厚0.4cm、重量1.1gを測る。黒曜石は針尾島産であろう。やや粗い作りである。

6は、P107出土の黒曜石製の正三角形凹基鎌である。脚端を欠損する。長さ2.3cm、最大幅2.3cm、最大厚0.5cm、重量2.2gを測る。

7は、瓶埋納遺構M32出土の安山岩製の綫長剥片である。長さ5.7cm、最大幅3.3cm、最大厚1cm、重量13.7gを測る。打面は礫面で、右側面は風化面と礫面、左側面には礫面が残る。

8は、M12西上層（黒色土）出土の安山岩製剥片で、側辺打点側に二次加工を施す。長さ5.2cm、最大幅4.8cm、最大厚0.8cm、重量20.2gを測る。打面は礫面で、剥離角は100°を測る。

9は、M12内P33から出土した結晶片岩製の小型有溝石錐である。長軸長4.25cm、短軸長3.3cm、最大厚2.2cm、重量47.4gを測る。溝の幅は0.7～0.8mmである。前面上端に溝に対して直交方向に凹みがみられ、紐掛けに関連する可能性がある。

以下、図化した資料以外について記述のみの報告を行う。

M12東下層（黒褐色土）から、サスカイトの二次加工剥片と頁岩とシルト質砂岩の小型砥石が出土している。砥石は石材が緻密で砥面の肌理も細かく、2点とも仕上げ砥である。また、M12内炉M24から方柱状に粗く加工した花崗岩が出土している。被熱しており、炉に伴う石製支脚と考えられる。

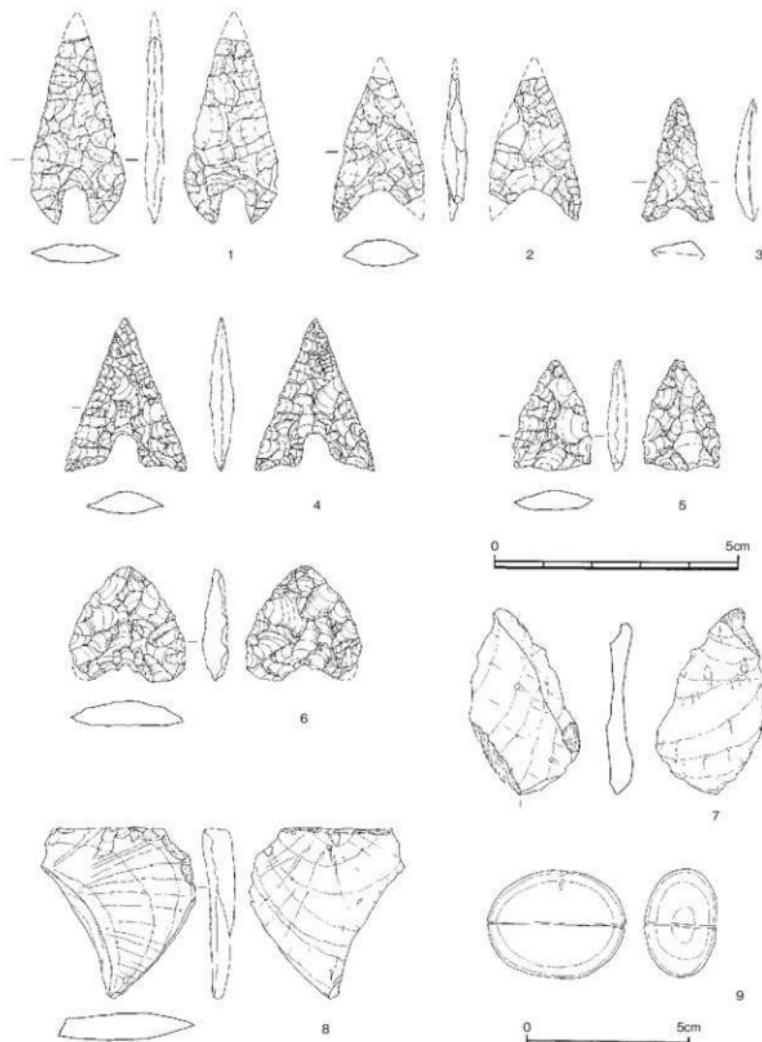
M12東SBから、黒曜石製の打製石鍬脚部片が出土している。鍬形鎌の脚部片であろう。

M13から、玄武岩製蛤刃磨製石斧（今山型石斧）が出土している。刃部を欠損し、体部2/3ほどを残す。やや風化している。

推乱から、黒曜石製の小型二等辺三角形有脚鎌が出土している。側辺先端側を一部欠損している。

この他、黒曜石・安山岩の小片が少量出土している。

以上のような石器の出土は、乙石遺跡第3次調査区周辺における縄文～弥生時代の人為的活動の痕跡を示すと考えられる。北側に隣接する乙石遺跡第4次調査でも縄文時代早期中葉の剥片・碎片集中範囲SX013・043が確認されており、今後の調査でも該期の遺構・遺物に注意が必要である。



1 M16 2 P24 3 摺乱 4 表様 5 M12西下層
6 P107 7 M32 8 M12上層 9 M12内P33

第1図 乙石遺跡第3次調査出土石器実測図 (7~9はS=2/3、他はS=1/1)

図 版



作業風景



1. 1c区全景（北西から）



2. 1d区全景（南東から）



3. 1c・d区全景（北東から）

図版2



4. 1a区西壁土層（北東から）



5. 1a区南壁土層（北東から）



6. 1a区中央東西土層（東から）

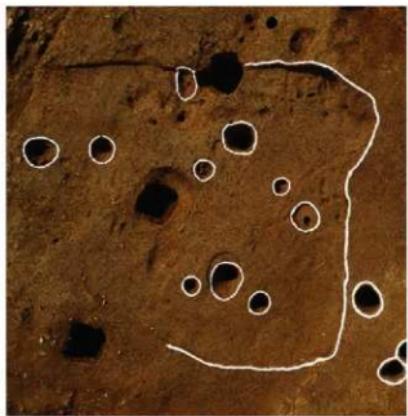


7. 3区南北土層（南から）



8. 4区南北土層（西から）

図版 4



9. SC066 (西から)



10. SK015 (北東から)



11. SB148検出 (東から)



12. SP004 (南から)



13. SP006 (南から)



14. SP007 (西から)



15. SP010 須恵器高台坏(第15図29)出土(西から)



16. SP014 (南から)



17. SP028 (北西から)

図版6



18. SP086 (南西から)



19. SP114 (南西から)



20. SP111 (南から)



21. SP113 (東から)



22. SP110 (東から)



23. SP106 (東から)



24. SP115 (東から)



25. SP116 (南から)



26. SP117 (南から)



27. SP119 (西から)



28. SP108 (北から)



29. SP110 (北東から)

図版8



30. SK057土層（東から）



31. SK096土層（東から）



32. SK129土層（北から）



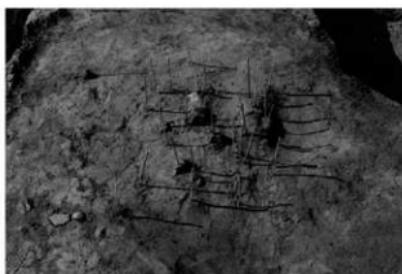
33. SK027土層（南から）



34. SK042土層（南から）



35. SK098土層（西から）



36. SX013上面遺物出土（南西から）



37. SX013中層遺物出土（南西から）



38. SX013（南から）



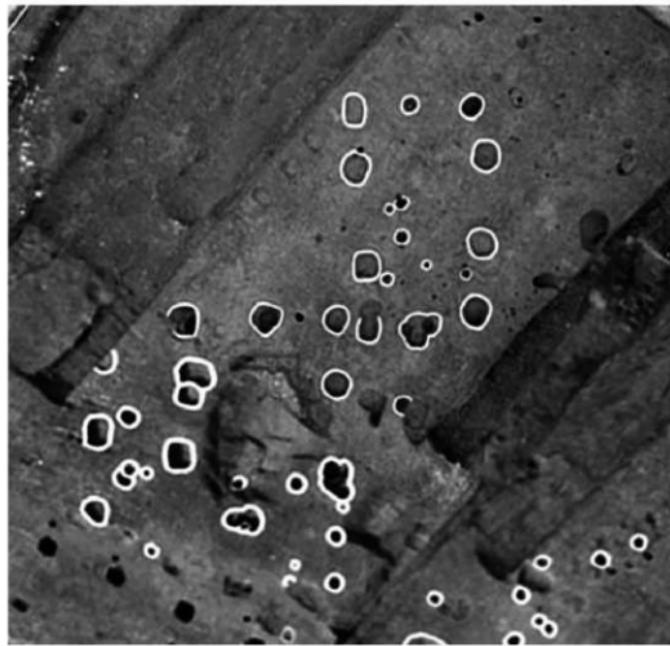
39. SX013 打製石鏃（第9図1）出土



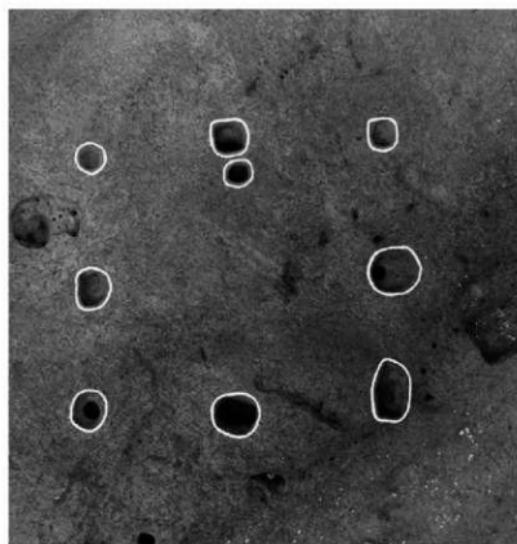
40. SX043遺物出土（北東から）



41. SX043グリッド掘削（西から）



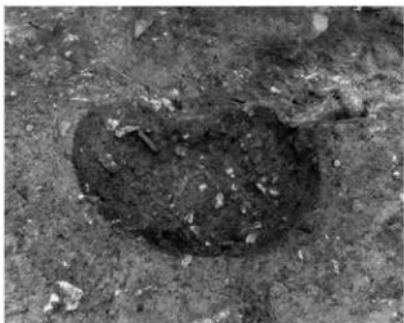
42. SB148・149 (東から)



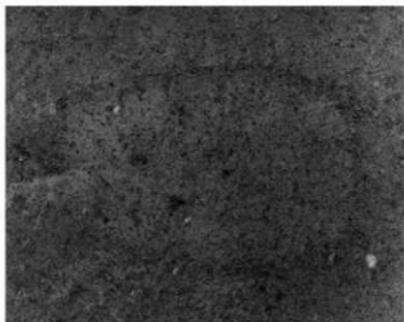
43. SB154 (東から)



44. SK057 (南から)



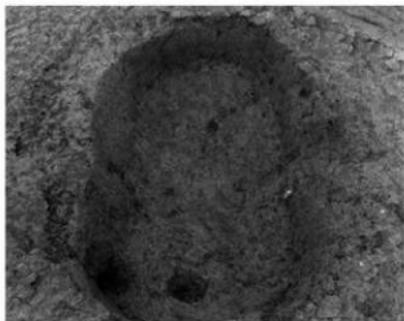
45. SK096 (東から)



46. SK129 (北から)



47. SK027 (東から)

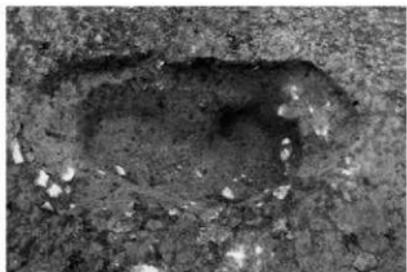


48. SK023 (北東から)

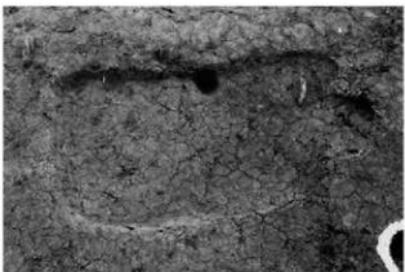


49. SK098 (東から)

図版12



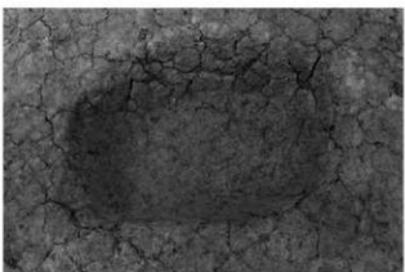
50. SK080 (北西から)



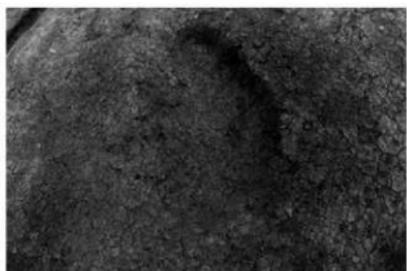
51. SK025 (北西から)



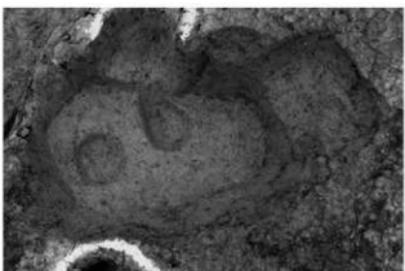
52. SK081 (北西から)



53. SX044 (南東から)



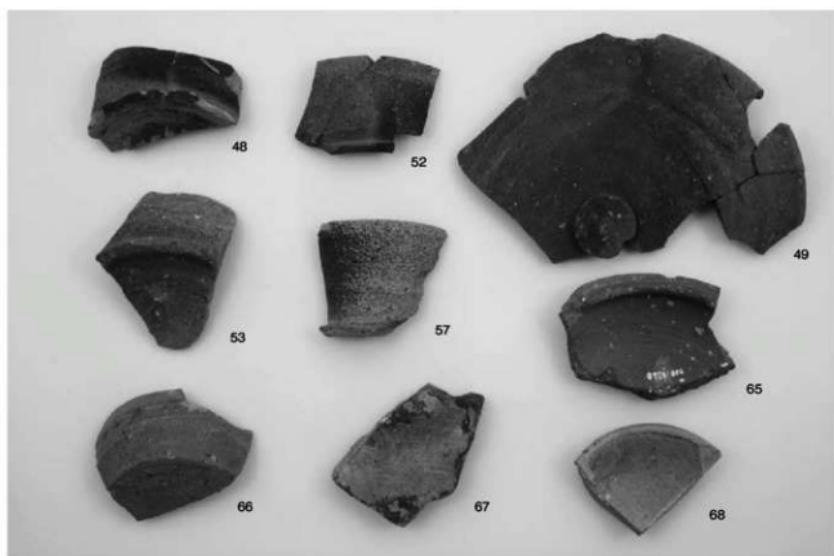
54. SX046 (北西から)



55. SX048 (南東から)



56. SC066出土遺物



57. SX・検出面出土遺物



29



31



32



42

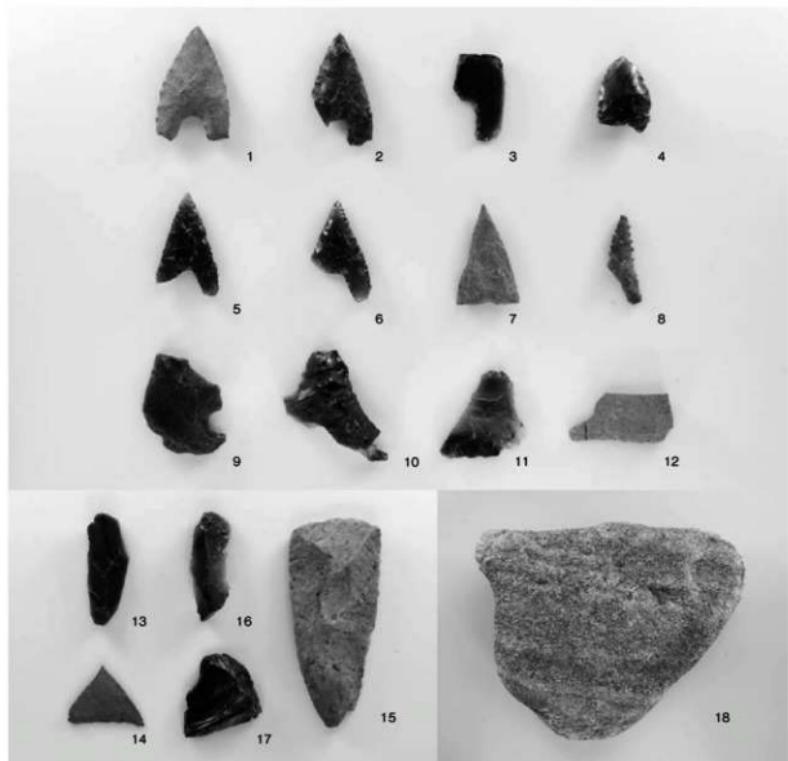
58. SB・SP出土遺物



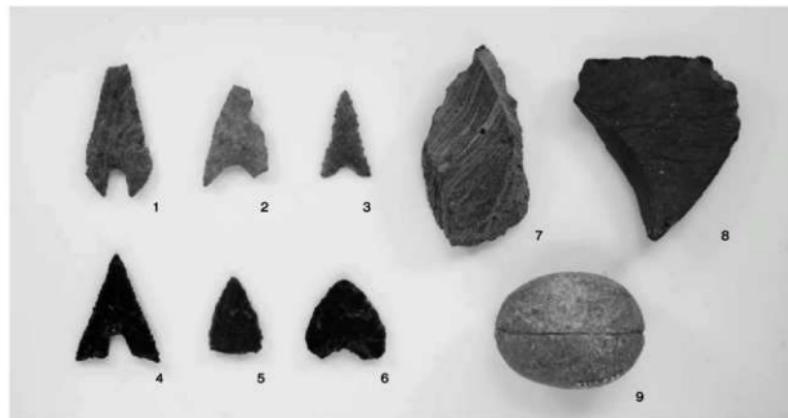
59. SX出土鉄滓



60. 上層包含層出土陶磁器



61. SX013 · 043出土石器



62. 乙石遺跡第3次調査出土石器

報告書抄録

ふりがな	おといしいせき1						
書名	乙石遺跡1						
副書名	第4次調査報告						
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第1143集						
編著者名	板倉有大						
編集機関	福岡市教育委員会						
所在地	〒810-8621 福岡市中央区天神1丁目8番1号 電話: (092) 711-4667						
発行年月日	2012年3月16日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東經	発掘期間	発掘面積 m ²	発掘原因
おといしいせき 乙石遺跡	ふくおかし 福岡市 にしくなたけ 西区金武	40135	020422	33度31分46秒	130度18分50秒 ～ 20110223	20100817 3.360	記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
乙石遺跡 第4次調査	集落	繩文時代早期	石器集中範囲	石器	石器製作・管理に関わる 剥片・碎片が出土した		
	集落	古墳時代後期	方形堅穴建物	土師器・須恵器			
	集落	飛鳥・奈良時代	掘立柱建物、土坑	土師器・須恵器・鉄滓			
	集落	近世	溝、包含層	陶磁器			
要約	遺構は、黒曜石・安山岩の打製石器・剥片・碎片の集中範囲、方形堅穴建物、3×2間・2×2間の無庇掘立柱建物、炭・焼土が遺存した隅丸長方形土坑、その他の略方形土坑・柱穴、遺物包含層である。石器集中範囲では、打製石器の製作・管理を一時的に行った場所と考えられる遺物が出土している。掘立柱建物は北北東・西北西に軸を合わせており、ある程度の計画的な配置をうかがえる。隅丸方形土坑は、埋土に焼土・炭が多く含まれる点が特徴で、製鐵に関わる営業遺構と考えられているものである。遺構検出面全体に黄色がかった褐色粘質土の堆積が認められ、遺物を含んでいる。風削木などの成因から生活面の土壌が再堆積した、一種の包含層と言える。その他、時期不明の井戸もしくは階穴の可能性がある土坑を確認した。遺物は、土師器・須恵器・陶磁器・石器・鉄滓などが出土した。大半が7～8世紀の所産であるが、6世紀代と近世の遺物が少量出土している。						

乙石遺跡1

第4次調査報告

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1143集

2012年3月16日発行

発行 福岡市教育委員会

福岡市中央区天神1-8-1

電話: 092-711-4667

印刷 ダイヤモンド印刷株式会社

福岡市東区松田3丁目9-32

電話: 092-621-8711